



CSR 2013

詳細版

目 次

報告にあたって	2
トップコミットメント	3
社是・経営方針と CSR	5
社会	
お客様とともに	7
株主・投資家様とともに	12
社会貢献活動	14
従業員とともに	20
環境	
基本的な考え方	25
環境負荷の全体像	26
環境目標	27
環境マネジメント	30
環境コミュニケーション	33
生物多様性保全への取り組み	35
環境負荷低減の取り組み	36
環境会計	40
環境データ	42
環境保全活動の沿革	55
ガバナンス	58

報告にあたって

編集方針

伊藤ハムでは2000年から「環境報告書」を発行し、今年で14回目の発行となります。2005年からは社会的側面の記述を充実させて「社会・環境報告書」として発行し、2008年から「企業の社会的責任」(Corporate Social Responsibility)に対する弊社の取り組みを皆様にご報告する内容に改めて、タイトルを「CSR報告書」としました。

本報告書は、ステークホルダーの皆様に当社グループのCSR活動をわかりやすくお伝えすることを目的としており、2012年度のCSR活動の中でも特に重要性の高い事項を中心に編集しています。今回から取り組みに関わる社内外のステークホルダーの声を掲載し、よりいっそう、わかりやすく、親しみやすい報告書となるよう心がけました。

また、本報告書に掲載できなかったサイトごとの詳細データなどについては、HTML版として公開しています。なお、本報告書はPDFのみで開示しており、冊子の発行はしておりません。

■伊藤ハムホームページ <http://www.itoham.co.jp>

対象範囲など

報告対象組織

基本的には伊藤ハムグループの取り組みを報告していますが、一部の報告では伊藤ハム株式会社、もしくは弊社およびグループの生産工場に限定している場合もあります。

報告対象分野

伊藤ハムグループが取り組みを行う社会的活動および環境保全活動

対象期間

基本的には2012年度(2012年4月1日から2013年3月31日)の取り組みを報告していますが、一部では2012年度以前、以降についても報告しています。

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告書ガイドライン(2012年度版)」

GRI「サスティナビリティレポート ガイドライン2006」

※「環境」の事業所写真は、原則として伊藤ハム(株)のものを掲載しています。関連会社の事業所を掲載した場合は、注釈に当該社名および事業所名を記載しました。

トップコミットメント

「食」を担う企業として 社会から信頼され続けるために

代表取締役社長

垣尾 宇



はじめに

伊藤ハムグループは、1928年の創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」の社是を掲げ、皆様の健康にとって大切な動物性タンパク質である食肉や食肉加工品をお届けし、食生活の向上に貢献してまいりました。また、「アジアの中で最も信頼される食肉加工メーカーになる」という経営ビジョンのもと、「食」を担う企業として社会から信頼され続けるために、中期経営方針においても「コンプライアンス体制のさらなる充実」を第一に掲げ、経営品質を高めるとともに、地球環境への配慮、社会貢献活動や食育活動などの分野においても、積極的に活動しております。

コンプライアンスを推進する体制

伊藤ハムグループはCSR本部が中核となってコンプライアンスを推進しております。2012年度も「CSR委員会」、「コンプライアンス責任者会議」、「コンプライアンス委員制度」や「リーガルリスクマネジメントシステム」の運用など、さまざまな施策・取り組みを継続して行っております。

特に、明日を担う若手社員の中からコンプライアンス委員を任命し、担当職域を定め職場に根付いた活動を推進する「コンプライアンス委員制度」については、2012年度より、委員の数を大幅に増員し、体制を強化しております。委員は2年を任期として活動し、職場のコンプライアンスチェックはもとより、委員としての経験を活かした職場のコンプライアンス風土の醸成に取り組んでいます。現在、300名以上の委員が活動しております。

また、伊藤ハムグループ全体のコンプライアンスの浸透と徹底のため、全従業員を対象としたコンプライアンス教育プログラムを策定し、従業員教育を実施して、コンプライアンスマインドの定着を図っております。

食品会社として、最も重要なことは、安全な製品を安心してお召し上がりいただくことで、品質管理の徹底は言うまでもありません。各生産工場での品質管理、検査、点検はもちろんのこと、CSR本部による定期的、または臨時の監査、点検を行っています。

社会と共生する「社会貢献活動」「食育活動」

伊藤ハムグループは地球環境への配慮と、社会との共生を大切にして、社会貢献活動を推進しています。全国の事業所周辺の清掃活動には、毎年のべ2000人以上の従業員が参加するほか、「こうべ森の学校」や「高尾の森づくりの会」の活動に参加して間伐・植樹作業を実施するなど、自然環境保護活動も継続して実施しております。

伊藤ハムグループは、企業が地域社会に貢献するためには、従業員の地域社会への帰属意識と地域社会活動に対する積極的な参画意識を高めることが重要であると認識しております。そこで、従業員の社会貢献活動への積極的な参加を促すことを目的として、ボランティア体験学習を開催するとともに、ボランティア休暇制度や社会貢献表彰制度を充実させ、従業員のボランティア活動への参画意識の高揚を図っております。

一方、開発途上国の子どもたちの支援を行う趣旨に賛同し、2008年度よりユニセフとタイアップし、弊社製品の販売数量に応じユニセフを通じて寄付を行う「タンザニア栄養事業支援」を継続しております。

また、「食育活動」は食品企業だからこそできる社会貢献活動の一つであり、伊藤ハムグループのCSR活動の重要な一環であると考えております。2007年度より、その具現化のため「伝えていきたい食べるよろこび」をメインメッセージとしてさまざまな食育活動に取り組んでおります。2012年度は、主にお客様を対象に、手作りワイン教室やピザ・シチューパイの手作り教室を工場見学とともに実施したほか、ワインナーの飾り切り教室を全国で開催し、お弁当をもっと楽しくするお手伝いをさせていただきました。今後も継続して活動を行ってまいります。

環境負荷を低減するために

継続的な環境保全と自然との調和・共生に配慮した事業活動を行うことは、伊藤ハムグループが企業の社会的責任を果たす基本姿勢と位置づけ、省エネルギー・省資源の推進、廃棄物の削減とリサイクルの推進、温室効果ガスの排出量削減など、さまざまな環境負荷低減活動に積極的に取り組むとともに、全生産施設を対象として、中期環境目標を定め、達成に向け日々努力を重ねております。

2012年度も高効率タイプのボイラーや冷凍機への更新など施設に関わる取り組み、およびLED照明への切り替え、空調機を高効率タイプに更新するなど設備面での取り組みを行いました。今後も目標達成に向けて、さまざまな環境負荷低減活動に積極的に取り組んでまいります。

社会から信頼され続けるために

伊藤ハムグループが真に社会から信頼され続けるために、社会貢献活動や食育活動、環境保全活動を継続することはもとより、人材の育成にも注力し、ワーク・ライフ・バランスや、女性活躍の推進、人材育成プログラムの開発など、多方面にわたってさまざまな課題にチャレンジし、全力でまい進いたします。

また、これらの活動につきましては、今後ともこの「CSR報告書」にて幅広く情報開示を行ってまいります。伊藤ハムグループの活動内容とその結果に対するステークホルダーの皆様のご理解と、皆様からの忌憚のないご意見・ご鞭撻を賜れば幸甚に存じます。

2013年10月

社是・経営方針とCSR

社是

事業を通じて社会に奉仕する

経営方針

伊藤ハムグループは長期的な企業価値の向上を目指し、活力ある魅力的な企業、また、社会に貢献できる企業へ全社を挙げて取り組むことを基本方針としています。

1 使 命 伊藤ハムグループは価値ある商品・サービスを提供することで、健全な生活の基盤
(ミッション) となる「食べる」ことの喜びや楽しさ、大切さを伝えてまいります。

2 経営姿勢 ●コンプライアンス(企業倫理の遵守)を徹底し、透明性の高い経営を行うことで、
社会から信頼される企業を目指してまいります。
●お客様に「安全」で「安心」な商品をお届けいたします。
●環境にやさしい企業活動を推進いたします。
●社員は会社の大切な財産です。能力主義・成果主義を重視し、何事にもチャレンジ
する活力ある職場を目指します。

3 行動規範 ●あらゆる法令や会社の規則を遵守し、社会良識に沿って行動します。
●議論は自由闊達、且つ徹底的に行い、決めた事はすぐに実行し最後までやり遂げます。
●慣習にとらわれず、常に新しい発想で、自主的に行動します。
●「強く正しく速く」の伝統精神のもと、自己責任原則を徹底します。

企業理念

経営ビジョン

中期経営方針

アジアの中で最も信頼される食肉加工メーカーになる

伊藤ハムグループは、企業規模や利益の追求だけを目的とせず、日本をはじめとしたアジア全体で、最も安全で安心な商品を提供している企業であるという信頼を得ることを目指します。

1 コンプライアンス体制の更なる充実 ●引き続き体制の充実を図る。
●業務執行に対する監督機能の一層の強化。
●社外取締役の導入。
●社会貢献活動にも引き続き注力。

2 人材の育成 ●ジョブローテーション/チャレンジ制度の構築。
●生産技術センターを設立し製造技術の伝承と
レベルアップを図る。

3 営業力、生産力をはじめとする現場力の強化 ●価値を生み出す現場の力の充実・強化。

4 お客様目線での商品開発を伴うマーケティング力強化 ●新しい価値創造。
●商品開発/マーケティング部門への人材投入。
●業務用商品の開発力・マーケティング力強化。

5 コスト競争力の強化 ●経営資源をより効率的、効果的に使える
強い筋肉質の企業体质へ。



お客様

お客様に「安全」で「安心」な商品をお届けし、健全な生活の基盤となる食べることへの喜びや楽しさ、大切さをお伝えし、お客様に満足していただけるようなさまざまな取り組みを行っています。

株主・投資家様

株主・投資家の皆様に株主還元を実施するとともに、さまざまな機会やホームページ、メディアを通じて、適時、適切な経営情報を開示し、良好な関係構築を図ります。

社会貢献

良き企業市民として、地球環境への配慮と社会との共生を大切にして、社会貢献活動を持続的に推進します。

従業員

従業員は会社の大切な財産です。その人格や個性を尊重しつつ、自己実現が達成できる仕組みづくりに努め、何事にもチャレンジする活力ある職場、安全で安心して働く職場環境の実現を目指します。

環境

環境関連法を遵守するとともに、地域環境の保全と社会の共生に努めます。省エネルギー、省資源、及び廃棄物の排出削減を図りリサイクルを推進するなど、環境保全活動によって、循環型社会の形成と地球環境負荷低減に貢献します。

ガバナンス

社会の一員であるという認識を強く持ち、あらゆる法令や社会的規範、社会的良識に基づいて企業活動を行い、社会から信頼されるべく社会が真に必要とする情報の開示や、事業を通じた社会貢献、環境に配慮した活動を行います。

お客様とともに



消費者の皆様に「安全」で「安心」な商品をお届けし、食べることへの喜びや楽しさ、大切さをお伝えするために、さまざまな取り組みを行っています。

- ▼ PICK UP : お客様の声に耳を傾け、絆を深める場として「もっとおいしくコミュニティ」を運営
- ▼ 安全・安心への取り組み ▼ お客様とのコミュニケーション



お客様の声に耳を傾け、絆を深める場として 「もっとおいしくコミュニティ」を運営

「もっとおいしくコミュニティ」は、伊藤ハムが企画・運営するモニター組織です。「お客様の視点からの自由な発想によるご意見」によって弊社商品をより良い商品にすることを目的として、2004年11月よりスタートしました。メンバーは、30代～50代前半のご自身が調理を行う主婦層が中心です。メンバーの皆様からのご紹介によって、少しずつ登録メンバー数を拡大しており、2013年6月現在、470名の方が登録されています。



メンバーの皆様にはグループインタビューやアンケート調査に参加いただき、商品に対するご意見や生活意識について伺っています。2012年度には、関東・関西でそれぞれ10回のグループインタビューを開催したほか、Web上で年4回のアンケートを実施しました。

このような活動を通じて収集したご意見は、商品開発や改良、マーケティング施策のヒントにさせていただいている。また、お客様とダイレクトにコミュニケーションできるという意味でも「もっとおいしくコミュニティ」は大切な役割を担っており、継続的な運用によってお客様との絆を深めていきたいと考えています。

もっとおいしくコミュニティモニターの声

友人の紹介でこの活動を知りました。毎日何気なく手にしていたハム・ソーセージ一つ一つに研究・開発の努力が詰まっていることを知り、勉強になりました。また、参加者の方々と意見を交わす中で、我が家の食生活の問題点などにも気づくことができました。伊藤ハムが主催している料理教室や工場見学など他の企画にも参加してみたいです。

もっとおいしくコミュニティ担当社員の声

今年度もモニター皆様の生の声を受けて社員が思いつかなかつた料理方法など、新たな商品の可能性や問題点に気づくことができました。今後は調査結果をより一層商品開発にいかせるよう、商品企画担当者との連携強化を図っていきます。また、商品への意見を伺うことも大切ですが、消費者の皆様に当社の商品づくりへの姿勢を理解していただき、安心感をもってもらえるようになればとも思っています。



加工食品事業本部 家庭用企画部
マーケティング推進室
真島 明日香

安全・安心への取り組み

推奨銘柄牛の履歴を検索できる「安全・安心システム」を適正に運用

伊藤ハムグループの推奨銘柄牛については、その出生からお肉に至るまでの履歴を検索できる「安全・安心システム(トレーサビリティシステム)」を導入し、運用しています。このシステムでは、国内にある当社グループの食肉加工センターで加工された「秋田錦牛」「三田和牛」をはじめとする国産牛に加えて、ニュージーランドにある海外直営牧場・加工場「ファイブスター・ビーフ社」で肥育、加工された「長期穀物肥育牛」履歴を個体識別番号から検索することができます。

国産牛の仕入部門である国内食肉本部では、履歴情報を正確なものとするために、と畜証明書など履歴管理に必要な書類を確認した上で、履歴情報を入力し、複数回チェックすることで誤りを防止しています。

「安全・安心システム(トレーサビリティシステム)」について

ホームページ

<http://www.itoham.co.jp/farm/anzen/tracea/index.html>



トレーサビリティのホームページ

食肉事業本部の全生産事業所などでISO22000の認証取得を完了しています

伊藤ハムグループは、ISO22000の認定取得を推進することで、生産施設や生産工程の安全性を確保しています。ISO22000は、品質管理の国際規格であるISO9001をベースとして、工程管理にHACCP(総合衛生管理製造過程)を取り入れた食品安全に特化した国際規格です。

伊藤ハムグループでは、2005年12月にグループ会社であるサンキヨーミート(株)有明ミート工場が、食肉業界で初となるISO22000を認証取得しました。以降、IHミートパッカー(株)、IHミートソリューション(株)、(株)藤栄、沖縄フレッシュパック(株)が認証を取得し、2008年までに食肉事業本部の全生産事業所が認証取得を完了しました。

さらに、ハム・ソーセージの生産工場では、グループ会社である筑紫ファクトリー(株)北九州工場が2009年にISO22000の認証を取得しました。



ISO22000適合証明書

「表示・デザイン会議」の開催などを通じて、法令にのっとった分かりやすい表示を追求

食品表示は、お客様にとって非常に重要な情報です。伊藤ハムグループでは、生産・販売している各食品について、関係法規を遵守し、かつ、お客様にできるだけ分かりやすく表示するように取り組んでいます。

近年、特に法的義務のある表示基準が複雑化し、さまざまな表示事項の追加、表示方法の改正が行われていることにかんがみ、社内の食品表示基準を整備しています。CSR本部品質保証部が、生産、調達、マーケティング、営業、商品開発、デザインなど関連部署とともに、定期的に「表示・デザイン会議」を開催し、法令遵守はもちろん、お客様の視点に配慮した社内表示基準を策定しています。加えて、伊藤ハムグループと協力工場では、表示に関する研修や勉強会を開催して従業員の知識向上を図っています。2012年度は、新入社員や品質管理部門を対象とした表示に関する研修会のほか、神戸、仙台、札幌、川崎の各地で食品加工を行うパックセンターでの表示勉強会なども実施しました。

さらに、伊藤ハムブランドの商品パッケージの表示・デザインについては、定期的に関連部門によるミーティングを行い、お客様からいただいた貴重なご意見をもとに、表示・デザインを改定し、改善に努めています。

2013年度以降、食品表示のルールを一元化するための「食品表示法」が施行される見込みでもあり、関連部門の間でコミュニケーションを綿密に取りながら対応を図っていきます。

安全・安心な商品をお届けするために、監査・点検を実施しています

CSR本部品質保証部では、お客様に安全・安心な商品を提供するために、伊藤ハムグループの各施設が適正に運用されているかなどについて、定期的、臨時的な監査・点検を実施しています。

特に、ハム・ソーセージなどの食肉製品の主力生産工場については、監査員が常駐し、厚生労働省承認のHACCP(総合衛生管理製造過程)の基準で、適正に運用生産されているかなどについて、各工場の品質管理部門と連携して監査・点検を実施しています。

また従来より、伊藤ハムグループの各営業所・物流・販売店舗の監査、および社外協力工場についても、新規取引開始時の工場審査、取引開始後の定期監査などを実施し、各商品の品質・安全性を確認、検証しています。

これらの監査の結果については毎月、執行役員会議で報告しています。リスクが高いと考えられる問題については、監査対象施設から改善状況の報告を求め、その報告内容をチェックすることで監査の実効性を高めています。

品質保証勉強会担当社員の声

品質保証部による勉強会を社会情勢による法律や業界基準などの変更に合わせて行っています

2012年度は100回以上行い、関係部門の社員約1,000人が参加しました。

伊藤ハムの商品を選んで良かったと実感してもらえるよう、今後も衛生管理だけでなく、分かりやすい食品表示にも取り組んでいきます。



CSR本部 品質保証部
内部統制課

小山 敦

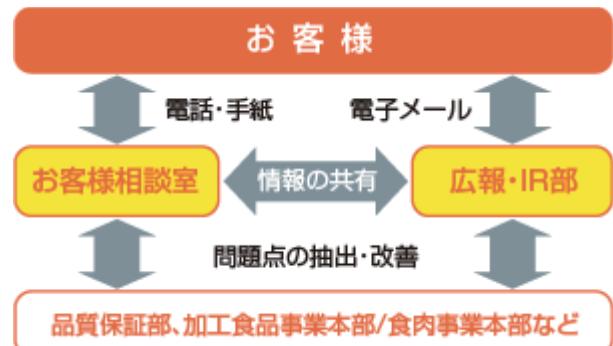
お客様とのコミュニケーション

お客様相談室へのお問い合わせに対して、誠意ある対応を迅速に行っています

伊藤ハムグループお客様相談室では、フリーダイヤル、ホームページ、お手紙などを通じて、お客様からお問い合わせ・ご意見をいただいています。2012年度には、主として「食べ方・調理方法」、「保存方法」、「キャンペーン内容」について、総数約13,500件のお問い合わせ・ご意見をいただきました。

特にお問い合わせについては、電話で内容を詳しく伺い、誠意ある対応を迅速に行うことを心がけています。また、ご指摘いただいた内容は関係部署と情報を共有し、問題点の抽出・改善に努めています。

■ お客様の声伝達経路



お客様から寄せられた声は、商品パッケージの改善などに役立てています

お客様からお寄せいただいた商品についてのご意見・ご要望は、商品の改善・開発に役立つ伊藤ハムにとっての“宝物”です。

お客様相談室では、「お客様の声」を関係部署に伝え、伊藤ハムブランドの商品パッケージの表示・デザイン、形態の改善、開発に役立てています。

2013年度は、お客様からいただいた声に基づいて、「商品ごとの特徴」、「食べ方・保存方法」などについてまとめた小冊子『ハム、大好き！(保存版)』を作成し、ギフト商品に封入しました。



『ハム、大好き！(保存版)』
※ 2013年 お中元より封入

お客様とのコミュニケーション強化のためにSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)に公式サイトを開設

伊藤ハムはギフト商品を中心として広くお客様にご支持をいただいているが、競争の激化による販売価格の下落など、市場環境が厳しさを増している今、お客様と正面から向き合い、しっかりとコミュニケーションが必要であると考えました。

このような考えのもと、ネットワークを通じてより多くの皆様に伊藤ハムのファンになっていただき、ブランディング※1の強化を図る目的で、2011年からSNSの公式コミュニティサイトをFacebook上に設け、運営しています。このサイトでは順調にファン数が増加し、エンゲージメント率※2においても高い数字を達成しています。

今後も、こうしたソーシャルメディアの活動を積極的に展開していくことで、お客様とのコミュニケーションの充実を図るとともに、高いエンゲージメント率を維持していきたいと考えています。

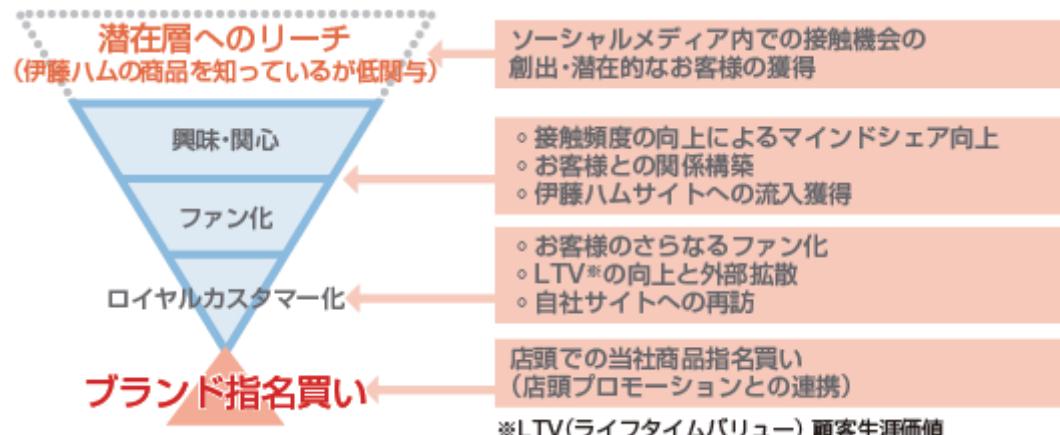
※1 ブランディング：企業が顧客にとって価値のあるブランドを構築するための活動。

※2 エンゲージメント率：どれだけファンからの反応を得られているのかを表す指標。Facebookの場合は「反応数 ÷ ファンの数」で算出し、投稿に対する「いいね！」の数とコメント数をそれぞれファンの数で割って合計したもの。

■ ソーシャルメディア展開の概要



■ ソーシャルメディアマーケティング施策の目的



■ ソーシャルメディアに取り組むまでの経緯

2011年		8月	30日よりtwitterを使ったアルトバイエルンキャンペーンを実施
3月	下旬よりGREE公式アカウントスタート	12月	Facebookの「いいね！」を17,000人弱を獲得
4月	・Facebook公式サイトスタート ・26日1,086人の「いいね！」獲得 ・GREEの「友だち」数が60,000人を突破、プロFDL数80,000件強となる	2012年	・アサノフレミキャラクター新登場 ・NHK「さきドリ！」出演 19,000人を突破
5月	20日3,000人の「いいね！」獲得	1月	『ハム係長のとっておきレシピ ため息でるほどおいしいですよ。ぶふう～っ』発刊
6月	NHK「あさイチ」出演 5,000人の「いいね！」獲得	5月	現在27,000人強のファン数を獲得
7月	19日10,000人の「いいね！」獲得	7月	

SNSコンサルティングの声

ハム係長を中心にファンの皆様が楽しめるコンテンツをこまめに更新しています

他の企業は販促を目的としたものが中心なのに対し、伊藤ハムさんのSNSはFacebookの“ファン”やGREEの“友だち”との間のコミュニケーションを最重要視しています。

今後はソーシャルメディアだけでなく、リアルイベントによるファンの皆様との交流や店頭と連動した企画なども期待しています。



株式会社トライバルメディアハウス
SMMコンサルティング部

中山 領さん

SNS担当社員の声

多くのお客様とやり取りをさせていただき、
SNSの反響の大きさを感じています

いつもお客様と楽しくやり取りをさせていただいております。SNSをお客様との関係づくりを強化していくツールとして活用していかなければと思っています。

今後もファンの皆様が飽きないような投稿をしていきますので、ぜひSNSサイトにお越しください！



管理本部 広報・IR部
IR・Web広報室

関澤 昌弘

株主・投資家様とともに



株主・投資家の皆様に株主還元を実施するとともに、長期的な企業価値の向上を目指し、経営情報を開示します。

- ▼ [企業情報開示・IR活動](#)
- ▼ [開かれた株主総会を目指して](#)
- ▼ [PICK UP : 株主優待制度](#)

企業情報開示・IR活動

ホームページによる情報開示

伊藤ハムではホームページにおいて、適時適正な情報開示に努めています。

- ▶ [「伊藤ハム」ホームページ](#)
<http://www.itoham.co.jp/>
- ▶ [「株主・投資家の皆様へ」ホームページ](#)
<http://www.itoham.co.jp/corporate/ir/syaze.html>



株主様向け報告書の発行

株主様向けの報告書を年に2回発行し、財務情報などをタイムリーにお伝えしています。

決算説明会

決算および第2四半期決算発表後、アナリスト・機関投資家様などを対象に決算説明会を開催しています。説明会資料については、ホームページにも掲載しています。

開かれた株主総会を目指して

近年、会社を取り巻く社会情勢がめまぐるしく変化している中、株主総会は経営方針を決定する場としてその重要性が高まっています。

伊藤ハムでは最高意思決定機関である株主総会を、株主の皆様と直接、意見を交換できる貴重な場と位置づけ、開かれた株主総会を目指しています。その一環としまして、招集ご通知の役員選任候補者の顔写真の掲載、「見やすく読み違えにくい」ユニバーサルデザインフォントの採用といった取り組みを新たに実施しています。

また、株主総会においては、事業報告と計算書類などの報告では、ナレーションと映像を用いてご説明し、株主の皆様に、よりご理解していただけるよう努めています。

なお、2013年6月26日(水)午前10時より第73回定時株主総会を神戸ポートピアホテル(神戸市)にて開催し、全決議事項が承認可決されました。出席者数は793名(前年は972名)、所要時間は1時間26分(前年は1時間03分)でした。

質疑応答においては、「少子高齢化社会への対策やそれに対応した商品開発」「女性の活用」「CNV2015の進捗について」など、のべ10名の株主様から19項目にわたるご質問と貴重なご意見をいただきました。



株主優待制度

伊藤ハムでは、株主の皆様に感謝の意を表すとともに、弊社の製品をより身近に感じていただくことを目的として、毎年3月31日現在で1,000株以上所有されている株主の皆様に対し、年1回(時期6月)、5,000円相当の当社製品を贈呈いたします。



平成25年6月送付の当社製品贈呈例

社会貢献活動



伊藤ハムグループの基本理念のもと、良き企業市民として、地球環境への配慮と社会との共生を大切にして、社会貢献活動を持続的に推進します。

社会貢献活動方針

- ▼ 1.「食と健康」の分野で、世界の人々に役立つ活動を行います。
- ▼ 2. 地域社会の良き一員として貢献し、信頼関係を築きます。
- ▼ 3. ユニセフ活動および国内外の被災地救済活動を支援します。
- ▼ 4. 森林や河川などの自然環境保護活動を支援します。
- ▼ 5. 従業員の意思と責任に基づくボランティア活動を支援します。

1. 「食と健康」の分野で、世界の人々に役立つ活動を行います。

「食育」に関する基本理念

2005年に「食育基本法」が公布されてから「食」への関心が高まり、企業や学校、地域でさまざまな取り組みが行われています。

伊藤ハムでは2007年1月、「食育に関する基本理念」を制定。「食」に携わる企業として、食べることの喜びや楽しさ、大切さを伝える活動を積極的に展開しています。

食育活動理念

伊藤ハムは、健全な生活の基礎となる「食」の大切さや楽しさを伝え、今、求められている「家族揃っての食事」が、語らいや団らんを育むことを伝えてまいります。

メインメッセージ

伝えていきたい食べる喜び

コーポレートメッセージ

あふれる笑顔

お客様の「あふれる笑顔」を実現させるために、
食育活動を推進してまいります



食育活動方針

- ・ 安全・安心で良質なたんぱく質を提供します
- ・ 正しい食習慣をサポートします
- ・ 貴重な食資源を大切にします
- ・ 楽しい食文化を発信します



Pickup

「食」に対する興味・関心を高めていただくために、「手作りワインナー教室」などを実施

「食」に対する興味・関心を高めていただくことを目的に、「手作りワインナー教室」や「ピザ・シチュー・パイ作り教室」を工場見学とともに実施するほか、数々の食育イベントを行っています。2012年度に参加した皆様からは次のようなご意見をいただきました。

手作りワインナー教室

西宮工場では、「手作りワインナー教室」を開催しました。地元の皆様がご家族で参加され、工場の社員がアテンドし、工場見学やビデオ視聴、手作りワインナーの試食も行い、地域社会とのコミュニケーションを深めています。



参加者の声

衛生管理もきちんとされており、これからも安心して伊藤ハム商品を食べられます。今日一日で伊藤ハムに愛着がわきました。

ピザ・シチュー・パイ作り教室

クリスマスにあわせ、神戸工場では、地域住民のご家族が参加する「ピザ・シチュー・パイ作り教室」を開催しました。ピザ生地をこねたり、シチューパイを作ったり、ご家族で「食」の体験をしていただいています。



参加者の声

ピザの製法が、手作りに近い製法ということに感動しました。

ワインナーの飾り切り教室

1本のワインナーからゾウやウサギなどお子様に大人気の飾り切りを作る体験を楽しんでいただきました。作る人も食べる人も楽しくなる飾り切りは、お弁当だけでなく、ピザやパスタなどのトッピングにも最適で、食卓を楽しく演出します。



参加者の声

楽しく作り、おいしく食べる。子どもには何よりも食べ物に興味を持ってほしいと常に思っているので、食育のためにもとても良い企画だと思います。

豚肉のカッティング教室

豚肉の整形の実演を行い、「お肉を食べることによる効用」や「健康に良い食事バランス」など「食」の大切さを学んでいただきました。



参加者の声

大きな塊の豚肉を初めて見て、改めて生き物をいただいているということを実感。感謝の気持ちがわきました。

2. 地域社会の良き一員として貢献し、信頼関係を築きます。

“食とeco”わくわく探検隊

食べ物と環境のかかわり、自然環境と生命の大切さを伝えることを目的に実施しています。地球にやさしい炊事や、自然観察を行います。



エコロジークッキングの説明



エコロジークッキングに挑戦

本社・西宮工場の清掃活動が西宮市の「道路愛護功労者」として表彰されました

伊藤ハムでは、毎年のべ2,000人以上の従業員が全国の事業所周辺の清掃活動を実施しています。

西宮市は、毎年8月10日の『道の日』に、永年にわたって道路清掃などに取り組む団体・企業などを「道路愛護功労者」として表彰しています。この度、本社・西宮工場の周辺において、当社が10年間毎月実施してきた清掃活動がその対象となり、2012年8月10日、西宮市長から感謝状をいただきました。この表彰については、当社が社会貢献活動の一環として継続して取り組んできた活動が、地元の皆様に評価いただいたものと考えています。



感謝状の授与



本社・西宮工場周辺の清掃活動

3. ユニセフ活動および国内外の被災地救済活動を支援します。

タンザニアの子どもたちを栄養不良から守るユニセフの活動を継続的に支援

伊藤ハムは、タンザニアの子どもたちを栄養不良から守るためのユニセフの活動を支援する「タンザニア支援プロジェクト」を2008年から継続して実施しています。このプロジェクトは、当社対象商品の売り上げの一部を寄付することで、ユニセフがタンザニアで展開する栄養支援プログラムを支援するものです。

お客様のプロジェクトへのご賛同に加えて、グループ会社を含めた250カ所の事業所から従業員募金を集め、2012年度には1,067万6,180円をユニセフへ寄付し、2008年度から2012年度までの寄付総額は、7,645万7,372円となりました。これらは全額、ユニセフがタンザニア連合共和国ザンジバル島とペンバ島で展開する「タンザニア栄養支援プログラム」に充てられています。具体的には医療スタッフの育成、栄養補助食品の提供に活用され、プログラムの成果拡大に貢献しています。



4. 森林や河川などの自然環境保護活動を支援します。



従業員とその家族もボランティアとして参加する 「こうべ森の学校」が発足10周年を迎えました

「こうべ森の学校」は、2002年に緑化100周年を迎えた六甲山系の再度山(ふたたびさん)を拠点に、これから100年の森林保全と育成をめざして神戸市が進める「六甲山これからの百年の森づくり」を、市民・行政・企業が協働で推進する森林保全活動です。10年間の活動で延べ13,000人の市民の方が参加され、28haの森を整備しました。また、このような活動を通じて森林保護の技術・知識を身につけた方たちが、指導員として各地の山々に赴き、森の整備を行っています。

当社は、自然環境保護活動の一環として「こうべ森の学校」に活動資金を提供し、従業員ボランティアを派遣しています。2013年4月21日、発足10周年を記念して式典が執り行われた際には、神戸市矢田市長にもご臨席いただき、当社従業員とその家族41名を含む159名(過去最多)のボランティアが参加しました。

当社は、「こうべ森の学校」をこれからも継続して支援し、森林保護活動を積極的に実施します。皆さんもぜひ、活動にご参加ください。



「こうべ森の学校」

■こうべ森の学校

- ・活動日： 定例活動日は奇数月は第二土曜日、偶数月は第三日曜日
　　ウイークデー森の手入れは毎週火・木・土
　　ウイークデー木工教室は毎月第二火曜日
- ・活動時間： いずれも10:30～15:00
- ・連絡先： 神戸市建設局 公園砂防部 森林整備事務所
- ・電話番号： 078-371-5937
- ・こうべ森の学校のWebサイト：
http://www.k5.dion.ne.jp/~kobemori/morigaku_hp/index.htm



感謝状の授与



森の手入れ



森の手入れ



森の手入れ

5. 従業員の意思と責任に基づくボランティア活動を支援します。

社会貢献推進期間

毎年9月～10月を『伊藤ハム社会貢献推進期間』と定め、従業員の意識向上と積極的な社会参加を目的とした活動を各地区で実施しています。

社会貢献表彰制度

顕著な社会貢献活動を継続して実施している従業員を表彰する制度を設けています。

ボランティア休暇制度

ボランティア活動に参加する場合、取得できる「ボランティア休暇制度」を設けています。

ボランティア体験イベント

ボランティア意識向上と、社会貢献活動への参加を促すために、「ボランティア体験イベント」を開催しています。

従業員ボランティアによるイベントを開催

従業員ボランティアが運営する社会貢献イベントを各地で開催しています。

(社会)

従業員とともに



従業員は、会社の大切な財産です。何事にもチャレンジする活力ある職場、安全で安心して働く職場環境の実現を目指します。

▼ PICK UP : ワーク・ライフ・バランス

▼ 教育制度の充実 ▼ 労働安全衛生 ▼ 健康管理 ▼ ダイバーシティの尊重



ワーク・ライフ・バランス

「ワーク・ライフ・バランス推進プロジェクト」を立ち上げました

「企業の持続的な成長のために、すべての従業員が生きがいを感じながら、その能力を存分に発揮できる職場環境づくりが重要」と考え、ワーク・ライフ・バランスを推進しています。

2013年1月にはグループ全従業員を対象とした意識調査の結果を受け、4月に「ワーク・ライフ・バランス推進プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトでは重点課題の改善に向けて、取り組み計画と数値目標を策定し、2013年度中に経営トップへ提言する計画です。



ハムママコミュニティ

段階的な制度拡充によって、 仕事と育児の両立を支援

伊藤ハムは、従来から「育児休業者職場復帰支援プログラム」「短時間勤務制度」「時差勤務制度」などを整備していましたが、2011年には計画有休制度の日数を年間3日から4日へ増加させました。

2013年には「第五次次世代育成支援行動計画」のもと、育児休暇をはじめとする支援制度のさらなる拡充によって、仕事と育児の両立を支援しています



次世代認定マーク
「くるみん」

ワーク・ライフ・バランス担当社員の声

近年、仕事と育児の両立支援制度の整備を進めてきた結果、結婚・出産後も働き続ける女性従業員が増えてきました。

今後も意識調査の結果などを踏まえて、研修、キャリア支援、ジョブリターン制度などの拡充を進め、従業員が家庭と仕事を両立できるようにしていきたいと思っています。

管理本部 人事総務部
人事政策室
鈴木 真理子



教育制度の充実

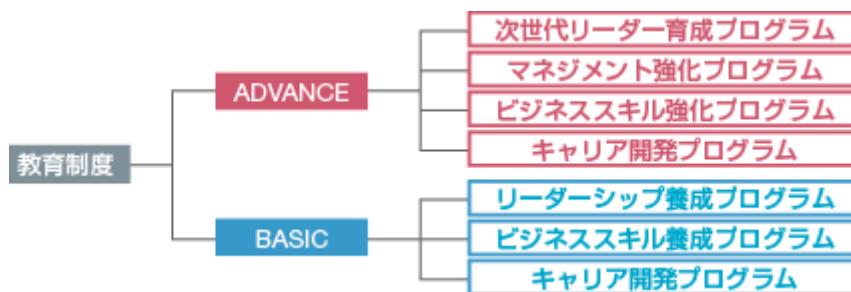
従業員の成長と組織の発展に向けて、教育制度の充実に努めています

伊藤ハムグループは、従業員一人ひとりの成長と組織の発展を実現することを狙いとして、教育制度において大きく2つのコースを用意しています。具体的には、全従業員を対象とし、ビジネスに必要な基本的なスキルの習得とキャリア開発を目的とした「BASICコース」と、人や組織のマネジメントに求められるスキルの習得とその強化を目的とした「ADVANCEコース」を設けています。

教育プログラムとしては、「BASICコース」において「リーダーシップ養成プログラム」「ビジネススキル養成プログラム」「キャリア開発プログラム」を、また「ADVANCEコース」には、「次世代リーダー育成プログラム」「マネジメント強化プログラム」「ビジネススキル強化プログラム」「キャリア開発プログラム」を設けています。

なお、高い成長意欲を持つ従業員に対し積極的に学習の場を提供するため、教育研修の多くは応募型を採用しています。

■ 教育制度の体系



■ 教育プログラム

ADVANCE	2級	主任	主事	管理職
次世代リーダー育成プログラム			ビジネスリーダー研修	マネジメントリーダー研修
マネジメント強化プログラム			マネジメントスキル研修	新任役職者研修
ビジネススキル強化プログラム			課題解決力強化講座・部門実践講座	新任管理職研修
キャリア開発プログラム			女性リーダーインカレッジ研修	

BASIC	2級	主任	主事	管理職
リーダーシップ養成プログラム			リーダーシップ養成研修	
ビジネススキル養成プログラム			論理的思考・課題設定力講座・課題解決力講座 コミュニケーションスキルアップ講座 部門スキルアップ講座 自己啓発支援制度(ビジネススクール／通信教育)・資格取得支援制度	
キャリア開発プログラム	3年目フォロー研修 ↑ 2年目フォロー研修 ↑ 新入社員フォロー研修 ↑ 新入社員入社時導入研修	主任キャリアチャレンジ研修	主事キャリアチャレンジ研修	レビュー者研修 女性キャリアデザイン研修

中長期的な視点に立った人材活用策として、ジョブローテーションなどを実施

人材活用においては、中長期的な視点に立ち、従業員自身が目標やキャリアビジョンを立てて上司と面談するキャリア面談や、同一部署での長期滞留による弊害を排除すべくジョブローテーションを実施しています。また、やる気のある人材の活用を促進するために、「社内フリーエージェント」「社内公募」などのジョブチャレンジ制度を導入・強化し、人材の活躍の場を広げています。

メンター制度の導入によって、新入社員・若手社員の即戦力化を促進

新入社員・若手社員の能力を迅速に向上させ、早期かつ着実に即戦力へと育成するために、2012年度にメンター制度を導入しました。職場と会社が一体となって、この制度を運用することで、計画的・重点的・継続的に新入社員の育成・指導に注力しています。

これらの制度を通して、伊藤ハムグループの継続的な発展に寄与するような、揺るぎない人材育成の基盤を築いていきます。

教育担当社員の声

メンターたちは後輩を育成することの感動を体感し、
大きく成長したと思います

実はメンター制度を取り入れたことの一番大きな効果は、新入社員を教えるメンターたちの成長です。また、彼らを支える上司たちの存在もあって、職場、会社一体となって人材育成の基盤づくりをスタートできたことは大きな収穫です。

今後は研修のアフターフォローを充実させ、自ら考え、主体的に行動できる人材の育成を進めていきたいと思います。



管理本部人事総務部
人材開発室

位田 明子

労働安全衛生

労働安全衛生方針

伊藤ハムグループは、すべての人が安全に安心して働く職場環境を実現するため、労働安全衛生管理に取り組んでいます。

■ 労働安全衛生方針

- 企業倫理規範に基づき、労働安全衛生の関係法令、社内規程・ルールを遵守し、従業員の安全と健康を確保します。
- 労働安全衛生方針を周知し、従業員の協力の下、自主的な労働安全衛生活動の促進とPDCAによる連続的・継続的な職場の労働安全衛生管理の水準の向上に努めます。
- リスクアセスメントにより職場に存在する危険有害要因の把握・評価を行い、リスクレベルに基づいたリスクの除去低減策を講じて、労働災害と健康障害の未然防止に努めます。
- 従業員が労働安全衛生の高い意識を有して、労働安全衛生を優先した作業が行えるように、繰返し労働安全衛生教育を行い、不安全行動やミスの撲滅に努めます。
- 伊藤ハムグループの心の健康づくり計画に基づき、メンタルヘルス不調者への対応とともに職場のコミュニケーションの活性化による心の健康づくりに努めます。
- 構内協力会社との連携、情報交換を充分に行い、構内協力会社と一緒にした総合的な労働安全衛生管理の構築に努めます。

安全衛生教育

新入社員の入社時集合研修では、安全に仕事をするための基本を身につけるために、「安全衛生の基本」の講義を行っています。

また、生産工場などでは、作業手順教育や労働災害同種災害防止教育など、安全衛生教育を繰り返し実施し、不安全行動の撲滅、従業員の安全衛生意識向上に努めています。



「安全衛生の基本」の講義

安全衛生監査

「労働安全衛生関係法令、社内ルールの遵守徹底」と、「労働災害や職業性疾病の発生防止」を目的として、CSR本部が年度の安全衛生監査計画に基づき、主要事業場の監査を実施し、遵法の指導と危険要因の改善に取り組んでいます。

健康管理

健康情報

お客様に信頼していただける仕事をするために心身の健康は必要不可欠なものです。

伊藤ハム健康保険組合では、人間ドック、がん検診の受診費用補助や禁煙サポート、ウォーキングイベントなどの疾病予防や体育奨励事業を推進するとともに、広報誌「きらり」やホームページを活用して、従業員とその家族に向けて健康情報を発信しています。

メンタルヘルス

伊藤ハムグループ「心の健康づくり計画」に基づき、グループ内の推進体制の構築や「医療法人あけぼの会メンタルヘルスセンター」との提携によるEAP(従業員とその家族を対象とした従業員支援プログラム)の導入を進めています。

不調者への対応だけでなく、職場のコミュニケーションの活性化や生産性の向上にも取り組んでいます。



メンタルヘルスのポスター

メンタルヘルスセンターの声

働きやすい環境づくりのために

管理者、一般社員、新入社員、メンタルヘルス推進担当者と階層別に13回講習を実施し、うつ病やストレスへの対処法などをお伝えしました。

伊藤ハム様はメンタルヘルス啓発活動、復職支援が充実している点が評価できます。今後も働きやすい職場づくりを目指していってほしいと思います。



医療法人あけぼの会
メンタルヘルスセンター
平賀 光美さん

ダイバーシティの尊重

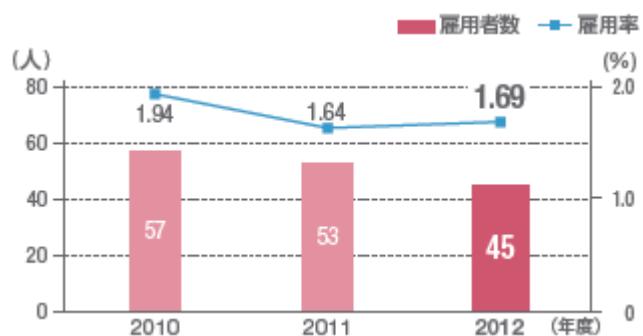
障がい者雇用率の向上に向けて、求職者確保や職場定着の促進に努めています

伊藤ハムの障がい者雇用率は2013年6月現在、1.78%です。1993年に当時の法定雇用率(1.6%)を上回って以来、雇用率を維持し、「兵庫県障害者雇用促進協会会長賞」「兵庫県知事賞」「日本障害者雇用促進協会会長賞」を受賞しました。しかし、最近では事務系派遣の直接雇用化やグループ会社再編などの影響もあり、現在の法定雇用率(2.0%)を下回っている状況です。

法定雇用率の達成を目指して、当社は就労支援センターや支援学校、職業安定所などからのご協力のもと、職場見学会や合同説明会を開催し、求職者を確保するとともに、適用業務の拡大にも努めています。さらに、障がい者が安心して働く職場づくりにも努めており、入社後のフォロー策として、支援ワーカーやジョブコーチと連携して職場への定着を図っています。

今後も雇用率向上に向けて、障がい者にとって働きやすい環境・風土づくりを進めています。

■ 障がい者雇用実績



定年退職者再雇用制度を拡充し、2012年度は66名を再雇用しました

定年退職後も働く意志があり、引き続き勤労者として社会に貢献したいと考えている従業員が積極的に働くことは、会社や社会にとっても大きなメリットという認識のもと、2006年に従来の「定年再雇用制度」を拡充、定年を迎える1年前(非正社員は半年前)に本人の意志を確認して最長65歳まで再雇用を継続する制度を導入しました。

再雇用期間は1年ごとの契約とし、継続就業の意志確認を毎年行っています。勤務形態は、従業員の希望をできるだけ汲み取り、勤務時間など柔軟に対応しています。その結果、2012年度は伊藤ハムで定年退職者の約80.5%にあたる66名(グループ全体では定年退職者の約81.5%にあたる128名)を再雇用しました。再雇用だけでなく60歳以上の新規採用を進めるなど、少子高齢化に対応した制度運用を目指しています。今後は、再雇用者のモチベーション向上を促す施策などを検討していきます。

■ 定年退職者再雇用実績





地球環境問題を重要な経営課題として認識した上で、地球環境を保全するために、環境関連法を遵守するとともに、省エネルギー、省資源、廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図り、廃棄物の資源リサイクルを推進します。これらの取り組みによって、循環型社会の形成と地球環境負荷低減に貢献します。

基本的な考え方

環境宣言

弊社は創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」ことを社是として、食品の安全と品質の向上に努め、食文化と社会の発展に寄与してまいりました。

一方、1980年代後半から環境問題が地球規模となり、経営の新しいパラダイムが求められてまいりました。私たちはこの変化に対応し、継続的な環境保全と自然との調和・共生に配慮した事業活動を通じて、経営品質の高揚を図るべく新たに環境にかかる基本理念を掲げ、全従業員が一丸となった活動を展開することを宣言します。

基本理念

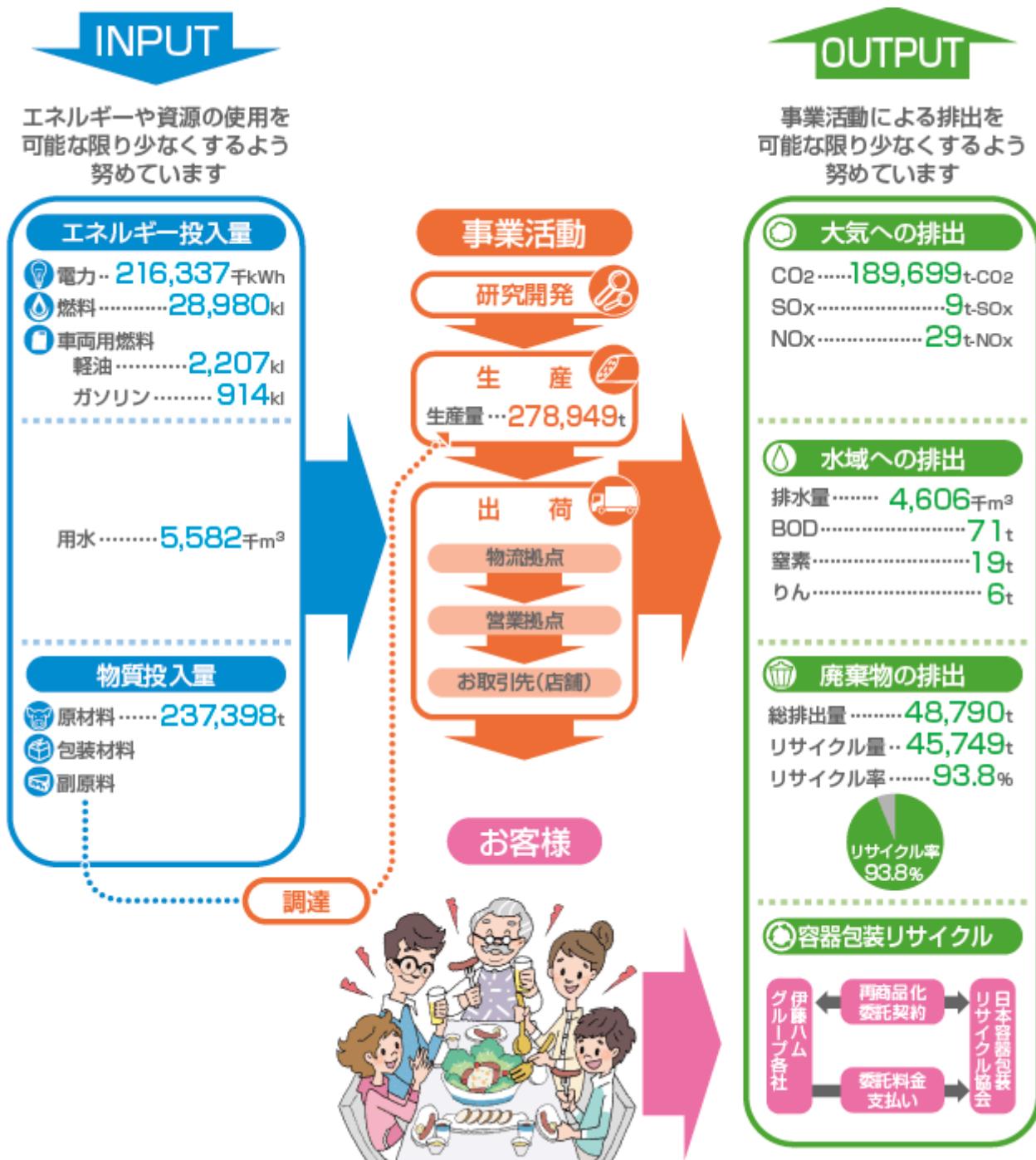
私たちは地球規模の環境保全が、人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動を通じて環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践してまいります。

行動指針

1. 開発から使用・廃棄に至るすべての過程で環境影響に十分配慮した商品、及びサービスの開発推進を行います。
2. 環境に及ぼす影響を考慮し、環境目的・目標を定め、定期見直しにより環境保全の継続的改善を図ります。
3. 環境関連法・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます。
4. 省エネルギー、省資源、及び廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図るとともに、廃棄物の資源リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めます。
5. 外部・内部監査を定期に実施し、自主管理の徹底を図ります。
6. 社内外の環境教育及び社内広報活動を通じて、従業員に環境基本方針の理解と環境保全意識の向上を図ります。
7. 海外事業活動において、当事国における環境保全に十分配慮します。
8. 環境基本方針及び環境保全と活動結果について、CSR報告書により情報開示します。



環境負荷の全体像



対象範囲

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京各工場、本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場、営業部 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場、営業部 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーベーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■サンキョーミート(株)有明ミート工場、霧島ミート工場 ■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、川崎、仙台、札幌各パックセンター ■沖縄フレッシュパック(株) ■(株)藤栄 ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムフードソリューション(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■アイエイチロジスティクスサービス(株)

環境



環境目標

第4次中期環境目標の取り組み結果と自己評価

2012年度はボイラーや冷凍機、変圧器の更新、夏期に工場屋根への散水、蒸気ドレン水の回収・再利用等を実施し、次の通りの結果となりました。

■ 第4次中期環境目標

項目	指標	基準年度 (2009年度)	2012年度 目標値		2012年度 結果		自己 評価	
			数値	増減	数値	増減		
①省エネルギー、省資源の推進	総エネルギー使用量(GJ/t)	11.8	11.4	▲3%	10.5	▲11.0%		
	用水使用量(m³/t)	22.1	21.4	▲3%	19.9	▲10.0%		
②廃棄物の削減とリサイクルの推進	廃棄物排出量(kg/t)	193	187	▲3%	171	▲11.4%		
	リサイクル率(%)	94.4	100.0	5.6 ポイント	95.2	0.8 ポイント		
③温室効果ガスの排出削減	二酸化炭素(CO ₂)排出量(kg-CO ₂ /t)	679	659	▲3%	599	▲11.8%		
④グリーン購入の推進	金額ベース	事務用品のグリーン購入率(%)	98.5	100.0	1.5 ポイント	90.3	▲8.2 ポイント	
	数量ベース	事務機器のグリーン購入率(%)	100.0	100.0	0.0 ポイント	100.0	0.0 ポイント	
⑤環境管理体制の充実	・グループ会社のISO14001認証取得推進　・環境監査の継続実施							

※ ①～③は生産原単位 総エネルギー：熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気) ⑤は単年度目標は設定していません。継続して推進、実施します。

1. 省エネルギー、省資源の推進

・総エネルギー生産原単位は
11.0%削減しました。



・用水生産原単位は**10.0%**削減しました。



2. 廃棄物の削減とリサイクルの推進

・廃棄物生産原単位は**11.4%**削減。
・リサイクル率は**0.8**ポイント高めました。



3. 温室効果ガスの排出削減

・二酸化炭素(CO₂)生産原単位は
11.8%削減しました。



4. グリーン購入の推進

・事務用品のグリーン購入率は
8.2ポイント下がりました。
・事務機器は**100%**を維持しました。



〈自己評価〉



2012年度の実績が目標値の
100%以上でした。



2012年度の実績が目標値を
下回りましたが、
基準年度より改善されました。



2012年度の実績が基準年度
を下回りました。
継続して、より一層取り組みを進めます。

対象範囲1、2、3

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草
ハム(株)関東工場 ■ハーベーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所 ■(株)
菊水本社工場、サッポロファクトリー ■サンキョーミート(株)有明ミート工場、霧島ミート工場 ■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和
田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、川崎、仙台、札幌各パックセンター ■沖縄フレッシュパック(株) ■(株)藤栄

対象範囲4

■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウ
エスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーベーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場

第5次中期環境目標

「第4次中期環境目標」に基づく取り組みに引き続き、生産量や品目、拠点数など近年の生産状況とのマッチングを図って、2013年4月からの3カ年を対象期間とした「第5次中期環境目標」を策定しました。

新たな目標達成を目指し、全従業員が一丸となって環境負荷低減活動を進めています。

■ 第5次中期環境目標

項目	単位	基準年度 (2012年度)	単年度目標(基準年度比)		
			2013年度	2014年度	2015年度
①総エネルギー使用量削減	生産原単位 (GJ/t)	10.5	10.4 (▲1%)	10.3 (▲2%)	10.2 (▲3%)
②用水使用量削減	生産原単位 (m ³ /t)	19.9	19.7 (▲1%)	19.5 (▲2%)	19.3 (▲3%)
③廃棄物排出量削減	生産原単位 (kg/t)	171	169 (▲1%)	167 (▲2%)	165 (▲3%)
③廃棄物のリサイクル推進	リサイクル率 (%)	95.2	96.1 (+0.9ポイント)	97.0 (+0.9ポイント)	98.0 (+1.0ポイント)
④CO ₂ 排出量削減	生産原単位 (kg-CO ₂ /t)	599	593 (▲1%)	587 (▲2%)	581 (▲3%)
⑤グリーン購入の推進	事務用品	購入率(%) (金額ベース)	90.3	92.9 (+2.6ポイント)	95.5 (+2.6ポイント)
	事務機器	購入率(%) (数量ベース)	100	100	100

※ 2012年度の実績を基準値として、最終目標年度を2015年度とした3カ年計画



環境マネジメント

環境保全活動の効果を高めるために、環境マネジメントシステムを構築・運用しています

伊藤ハムグループは、環境保全活動の効果を高め、持続可能な社会の構築に貢献していくために、環境マネジメントシステムを構築し運用しています。

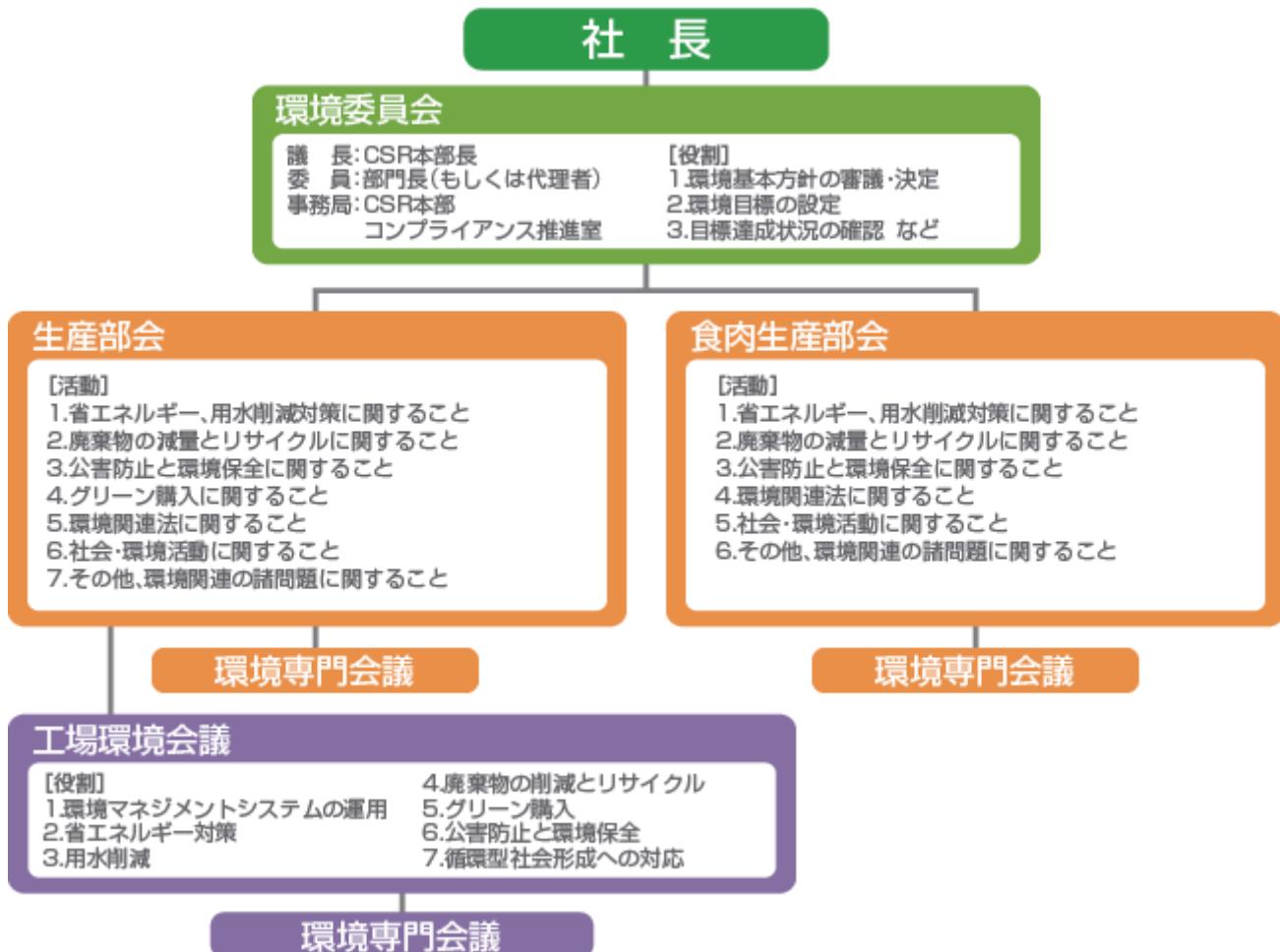
主要な生産工場では、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得し、環境保全活動を推進しています。

環境課題へ迅速かつ円滑に対応するために、環境管理体制を構築しています

環境マネジメントを推進し、省エネルギー・省資源、廃棄物の資源リサイクルなど、環境保全に関わるさまざまな課題に対して迅速かつ円滑に対応するために、環境管理体制を構築しています。

また、環境基本方針や目標設定などの全社的な事項は「環境委員会」で審議・決定しています。

■ 環境マネジメント組織体制



活動のさらなるレベルアップを図るために環境監査を実施しています

事業所内で実施する内部環境監査はもちろん、環境汚染や環境事故を防止し、環境保全活動のさらなるレベルアップを図るために、CSR本部監査室が、年度の計画に基づいて主要事業所の監査を実施しています。

2012年度は、合計84事業所の監査を実施しました。



監査項目

環境関連法遵守状況、公害防止管理、廃棄物管理など

監査結果

廃棄物管理や環境関連施設にかかる届出事項に一部軽微な不備がありましたが、すべて是正したことを確認しました。

ISO14001認証取得

環境マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的な改善を実施するために、環境に関する国際規格であるISO14001を認証取得しています。

グリーン購入

「グリーン購入基本方針」と「グリーン購入ガイドライン」を制定し、環境に配慮した物品の優先的な購入に取り組んでいます。

環境関連法、協定で定められた規制値など法令の遵守に万全を期しています

「大気汚染防止法」、「水質汚濁防止法」をはじめとする環境関連法や、環境保全協定などで定められた規制値を守るとともに、事業所ごとに行う内部監査やCSR本部監査室による環境監査を実施し、指摘事項には迅速に対処し是正を図ることで、法令の遵守に万全を期しています。

■ 環境関連法一覧

- ▶ 大気汚染防止法
 - ▶ 水質汚濁防止法
 - ▶ 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
 - ▶ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)
 - ▶ 食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律
(食品リサイクル法)
 - ▶ 資源の有効な利用の促進に関する法律(リサイクル法)
 - ▶ 容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律
(容器包装リサイクル法)
 - ▶ エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネルギー法)
 - ▶ 地球温暖化対策の推進に関する法律(地球温暖化対策推進法)
 - ▶ 労働安全衛生法
 - ▶ 自治体との環境保全協定
- など

環境管理に関するお問い合わせに迅速かつ誠実な対応を心がけています

環境管理に関するお問い合わせに対して、その都度、迅速かつ誠実な対応を心がけています。

対応策実施後はその効果を確認し、お問い合わせをいただいた方に報告し、ご了解をいただいている。(お名前を教えていただけなかった場合を除く)2012年度は次のようなお問い合わせをいただきました。

■ お問い合わせ内容と対応策の一覧

内 容		対応策
騒 音	工場から配管をたたくような音がする。	廃水処理設備の調整槽に備えられているポンプ類が故障していたのが原因。ポンプ類を修理して対応しました。
	工場敷地にある室外機から異音が聞こえる。	室外機の冷却ファンが経年劣化していたため、取り替えることで、騒音が解消しました。
	工場のクーリングタワーの音が大きい。	クーリングタワーのペアリングが経年劣化して異音が発生していたため、ペアリングを交換しました。
日当たり 不良	敷地に植えられている高木で日当たりが悪化し、冬場に路面が凍結する。	高木を伐採しました。

緊急時の対応策

汚水や重油、薬品の漏洩など、環境汚染を引き起こすような突発的な事故を想定し、その影響の拡散を防ぎ、汚染を最小限にするとともに、早期に修復するために、環境マネジメントシステムの緊急時の処置手順に沿って、定期的に訓練を実施しています。

万一事故が発生したときには、社内間の連絡と必要に応じて行政機関や地域住民への連絡を円滑に行うように規程を定め運用しています。



廃油の漏洩対応訓練(東京工場)

環境



環境コミュニケーション

環境情報開示

「環境保全活動をはじめ、CSR活動について、社内外へ情報発信することは企業の果たすべき責任である」という認識のもと、ホームページを通じて積極的に情報を開示しています。

2000年から毎年、報告書を発行してCSR活動に関する情報を開示しています

環境保全活動をはじめ、伊藤ハムグループのCSR活動をご理解いただくために、2000年から毎年、CSR報告書を発行※しています。環境負荷の低減を考慮して2012年に冊子を廃止し、ホームページで情報を開示しています。

また、「伊藤ハムグループ2013年CSR報告書」のホームページに専用フォームを設け、CSR報告書に関するご意見、ご感想などを投稿いただけるようにしています。

※2000年はエコレポート、2001年～2004年は環境報告書、2005年～2007年は社会・環境報告書、2008年よりCSR報告書として発行



「伊藤ハムグループ2013年CSR報告書」ホームページ

従業員教育・地域とのコミュニケーション

従業員一人ひとりの環境保全意識を高め、継続的に環境保全に取り組む企業風土を醸成するために、環境教育や意識啓発活動を実施しています。

このような取り組みの一環として、従業員がボランティア活動を通じて、環境保全の大切さを学ぶ「環境ボランティア体験学習」を実施しています。また、環境学習「出前授業」を実施し、地域の皆様との交流を深めています。

従業員教育を実施して環境保全意識の向上を図りました

「新入社員の環境教育」、「環境マネジメントシステム教育」、「工場における一般教育・専門教育」、「営業部門におけるエコドライブ教育」、「社外の環境教育・セミナーの受講」などの教育を実施するとともに、職場に「環境情報掲示板」を設置するなど、従業員の環境保全意識の向上に努めています。



営業部門におけるエコドライブ教育

環境ボランティア体験学習



課外授業「こうべ森の学校」



クリーンアップin甲子園浜

環境学習「出前授業」を実施し、地域との交流を深めています

NPO法人「こども環境活動支援協会」(西宮市)の「環境学習支援プロジェクト」に参加しています。

また、教育機関からの要望に応じて弊社の従業員を講師として派遣する、環境学習「出前授業」を通じて、地域との交流を深めています。



環境学習出前授業(神戸市立なぎさ小学校)



生物多様性保全への取り組み

ビーチクリーンアップ活動

野生動物がえさと間違えてプラスチックごみやタバコのフィルターなどを誤食しないことを願って、事業所周辺や海岸のクリーンアップ活動を実施しています。甲子園浜(兵庫県西宮市)では、海を漂い、海鳥や魚類への悪影響が懸念されるレジンペレット※の回収を実施しました。

※プラスチック製品の中間材料。事業場からの漏れ出し、船からの荷こぼれ、不法投棄などで河川や湖沼、海洋に流出すると、長い年月にわたり分解されず、環境問題になっている。また漂流物を鳥や魚が誤食することで、生体に何らかの影響が生じる可能性が懸念されている。



ビーチクリーンアップ活動

森林保護活動

「こうべ森の学校」、「高尾の森づくりの会」に参加し、間伐作業や植樹などの森林保護活動を行っています。



森林保護活動



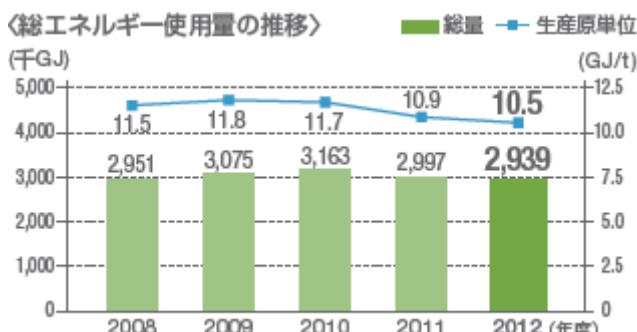
環境負荷低減の取り組み

伊藤ハムグループでは、電力・燃料・用水の使用量や二酸化炭素・廃棄物の排出量を削減するために、さまざまな環境負荷低減の取り組みを実施しています。2012年度に実施した主な取り組みは次のとおりです。

生産事業所の取り組み

より効率の良い機器への更新などで省エネを図り、二酸化炭素排出量を削減しています

- 効率の良いボイラーに更新しました。
- スパイラル式冷却庫からトンネルフリーザーへ入れ替えました。
- トップランナ方式適用の変圧器に更新しました。
- 工場屋根に苔緑化設備を設置／夏期、工場屋根や空調室外機に散水／断熱効果の高い塗料で工場屋根を塗装などによって、設備全体の温度を下げ、冷房の負荷を低減しました。
- 高温の蒸気ドレン水を回収し、蒸気を作ることによって、湯を沸かす際に必要となる燃料使用量を削減しました。
- 蒸気配管に保温ジャケットを設置して、放熱ロスを少なくし、燃料使用量を削減しました。



効率の良いボイラー(東京工場)



トンネルフリーザー(豊橋工場)



トップランナ方式適用の変圧器
(伊藤ハムデイリー㈱東北工場)



苔緑化設備
(伊藤ハムウエスト㈱九州工場)



工場屋根の散水
(サンキョーミート㈱霧島ミート工場)



保温ジャケット
(伊藤ハムウエスト㈱九州工場)

蒸気ドレン水の再利用や雨水の利用で用水使用量を削減しています

- ・蒸気ドレン水を回収して、ボイラー用水に再利用しました。
- ・敷地内の消雪に雨水を利用しました。



蒸気ドレン水の貯水タンク(豊橋工場)

廃棄物の発生抑制、減容を推進するとともに、リサイクル率を高めています

- ・廃プラスチック圧縮機を導入しました。
- ・廃ポリシートをマテリアルリサイクルしました。



廃プラスチック圧縮機 (IHミートソリューション株仙台パックセンター)

〈廃棄物排出量の推移〉



〈リサイクル量とリサイクル率の推移〉



生産事業所対象範囲

■伊藤ハム㈱神戸、六甲、西宮、豊橋、東京各工場 ■伊藤ハムデイリー㈱東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト㈱九州工場 ■浅草ハム㈱関東工場 ■ハーベーデリカテッセン㈱四日市工場 ■筑紫ファクトリー㈱北九州工場 ■ロイヤルデリカ㈱本社工場、岡山事業所 ■㈱菊水本社工場、サッポロファクトリー ■サンキョーミート㈱有明ミート、霧島ミート各工場 ■IHミートパッカー㈱関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション㈱九州、神戸、川崎、仙台、札幌各パックセンター ■沖縄フレッシュパック㈱ ■㈱藤栄

事務所・営業所・物流センターの取り組み

空調機の更新や輸送効率の向上などにより、電力・燃料使用量の削減に努めています

- 空調機を高効率タイプに更新しました。
- LED照明への切り替えを進めました。
- クールビズ、ウォームビズを実施、夏場は室温が28°C、冬場は20°Cとなるように空調機の温度設定を調整し、節電に取り組みました。
- 積み合わせ輸送・混送便の利用、輸送量に応じた適正車種の選択、輸送ルートの見直しなどで、輸送効率を向上させました。
- 保有車両の低公害車(低燃費、低排出ガス自動車、アイドリングストップ機能搭載車、ハイブリッド車など)への転換を進めました。
- 車両へのエコドライブステッカーの貼り付け、「エコドライブ推進月間」である11月にポスターを掲示するなどにより、従業員の意識を啓発し、エコドライブを促進しました。

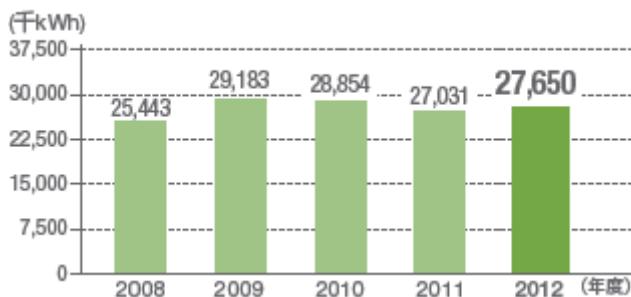


クールビズの実施を周知する表示
(本社事務所)



「エコドライブ推進月間」ポスター

〈電力使用量の推移〉



事務所・営業所・物流センター対象範囲

■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所
■伊藤ハムデイリー(株)営業部各営業所 ■伊藤ハムウエスト(株)営業部各営業所 ■伊藤ハム販売(株)各営業所 ■伊藤ハムミート販売東(株)各営業所 ■伊藤ハムミート販売西(株)各営業所 ■アイエイチロジスティクスサービス(株)各営業所および各センター

〈車両燃料(軽油・ガソリン)使用量の推移〉



環境管理に携わる社員の声（豊橋工場）

豊橋工場ではハム、ソーセージ、惣菜品を製造しています。製造6課では、冷却効率を向上させるために、従来使用していたスパイラル式冷却庫からトンネルフリーザーに入れ替え、生産原単位で電力量を半減することができました。また、以前は回収できなかった加熱工程で発生する蒸気ドレン水を回収、ボイラーの予熱やボイラー用水に再利用し、重油や用水使用量の削減に取り組んでいます。

今後は、排気ファンの制御方法見直しや外灯にLED照明を導入するなど「省エネルギー改善活動」を進めていきます。



加工食品事業本部
生産本部 豊橋工場
管理部ES課第2係係長
山口 博史

環境管理に携わる社員の声（東京工場）

東京工場ではハム、ソーセージのほか、ピザやブリトーなどの調理品も製造しています。2012年度は、環境関連設備への投資としてボイラーの更新を行い、ボイラーの年間電力量を36千kWh（前年比14.2%）削減することができました。そのほか、工場の屋根や空冷冷凍機のコンデンサへの散水、事務所窓への遮熱カーテンの設置、照明の間引きなどを実施しました。

今後は、設備投資などのハード面はもちろんのこと、ソフト面でも従業員の環境保全に対する意識向上を目指して、環境教育により一層注力します。



加工食品事業本部
生産本部 東京工場
管理部環境管理課課長

池田 覚

環境



環境会計

2001年度より主要生産工場の環境関連施設や環境に関する取り組みに投入したコスト、投入コストに伴う環境保全効果を集計し、環境経営に利用しています。前期との比較を容易にするため、前期実績と当期実績および増減値を記載しています。

2012年度環境会計の分析

2012年度は、ボイラーの更新、トンネルフリーザーの設置、屋上への苔緑化設備の設置などの投資を行いました。前期ほど大規模な投資ではなく、全体としての投資額は減少しました。また、環境関連施設の電力費用および下水道料金の増加などで環境保全コストの費用額は昨年より増加しました。

環境関連施設の改善、維持管理に関しては、今後も内容を精査しながら対策を進め、効果的な投資を行っていきます。

■ 環境保全コスト

(単位:千円)

分類	主な取り組み内容	投資額			費用額		
		前期	当期	増減	前期	当期	増減
事業エリア内コスト		274,650	77,676	▲ 196,974	686,060	983,612	297,552
公害防止コスト	環境関連施設の改善、維持管理	72,147	10,961	▲ 61,186	407,933	690,661	282,728
地球環境保全コスト	省エネルギー設備の設置、対策費用	173,304	63,716	▲ 109,588	41,600	30,933	▲ 10,667
資源循環コスト	廃棄物のリサイクル及び処理処分費用	29,199	2,999	▲ 26,200	236,527	262,018	25,491
上・下流コスト	容器包装リサイクル法の再商品化委託料等	300	600	300	247,387	229,520	▲ 17,867
管理活動コスト	EMSの構築、環境保全に係る人件費等	2,045	240	▲ 1,805	44,370	25,727	▲ 18,643
研究開発コスト		0	0	0	0	0	0
社会活動コスト	緑化・その他環境活動費用	240	0	▲ 240	4,835	8,347	3,512
環境損傷コスト	燃料使用による汚染賦課金	0	0	0	1,066	1,095	29
合 計		277,235	78,516	▲ 198,719	983,718	1,248,302	264,584

■ 環境保全効果

効果の内容	環境パフォーマンス指標(単位)	前期	当期	原単位調整効果
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量 (GJ)	2,343,822	2,283,767	15,523
	電力エネルギー投入量 (GJ)	1,394,710	1,357,710	10,501
	その他燃料投入量 (GJ)	949,112	926,057	5,022
	用水の投入量 (千m ³)	4,077	3,958	42
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	132,766	129,396	847
	廃棄物総排出量 (t)	21,985	20,731	836
	総排水量 (千m ³)	3,100	3,155	▲ 113
	BOD排出量 (t)	57	54	1
	SOx排出量 (t)	9	9	▲ 1

* 指標の値 原単位調整効果: 生産原単位を加味した削減効果

【前期投入量(排出量) × (当期生産量／前期生産量) - 当期投入量(排出量)】

当期生産量／前期生産量 = 0.981

* エネルギー投入量は、購入電力、燃料、購入熱(蒸気)を熱量換算した値(GJ)

■ 環境保全対策にともなう経済効果

(単位:千円)

効果の内容		総金額	原単位調整金額
収益	廃棄物の有価売却による収益	48,362	47,444
費用削減	省エネルギーによるエネルギー費の削減(電力・燃料・購入蒸気)	▲ 76,017	▲ 141,119
	用水に係る費用の削減	37,175	28,585
	廃棄物処理費の削減	14,314	9,386

* 指標の値 収益:当期収益

費用削減:前期に対する費用削減額【前期費用－当期費用】

原単位調整金額:生産原単位を加味した収益【当期収益－(当期生産量／前期生産量)】

費用削減・生産原単位を加味した費用削減額【前期費用×(当期生産量／前期生産量)－当期費用】

当期生産量／前期生産量=0.981

■ 集計方法、集計期間、集計範囲

1. 集計方法

- ① 投資額および減価償却費は、100%環境目的のもののほか、環境改善機能を有する生産設備については按分集計しています。
- ② 環境保全効果については原単位調整効果、経済効果については、効果の総金額と原単位調整金額の両方で集計しました。
- ③ 公表フォーマットは「環境会計ガイドライン(2005年版)」を参考にしました。

2. 集計期間

2012年4月1日～2013年3月31日

3. 集計範囲

伊藤ハム(株)(神戸、六甲、西宮、豊橋、東京各工場)

伊藤ハムデイリー(株)(東北、小樽、北陸各工場)

伊藤ハムウエスト(株)九州工場



▼ 環境データ ▼ サイトデータ

環境データ

伊藤ハムグループ全体の環境負荷

■ 2012年度 緊急時の対応訓練

事業所名		訓練の内容	参加者数(人)
伊藤ハム(株)	六甲工場	汚水・汚泥の漏洩対応	3
		汚水・薬品漏洩対応訓練	5
		廃油の漏洩対応訓練	14
		フロンガスの漏洩対応訓練	14
	西宮工場	汚水・薬品の漏洩対応訓練	4
		フロンガスの漏洩対応訓練	5
		重油の漏洩対応訓練	5
	豊橋工場	廃油の漏洩対応訓練	6
		汚水・薬品の漏洩対応訓練	6
	東京工場	汚泥・汚水・薬品の漏洩対応訓練	2
		フロンガスの漏洩対応訓練	7
伊藤ハムデイリー(株)	東北工場	重油の漏洩対応訓練	7
		重油・汚水の漏洩対応訓練	3
		フロンガスの漏洩対応訓練	3
	小樽工場	汚泥・重油の漏洩対応訓練	2
		フロンガスの漏洩対応訓練	2
	北陸工場	薬品の漏洩対応訓練	3
		不完全処理水の流出防止対応訓練	3
伊藤ハムウエスト(株)	九州工場	フロンガスの漏洩対応訓練	6
		污水の漏洩対応訓練	3
		重油の漏洩対応訓練	4
サンキョーミート(株)	有明ミート工場	重油の漏洩対応訓練	5
	霧島ミート工場	汚水の漏洩対応訓練	4
IHミートパッカー(株)	十和田ミートセンター	汚水の漏洩対応訓練	4
沖縄フレッシュパック(株)		汚水の漏洩対応訓練	4
(株)藤栄		汚水の漏洩対応訓練	4

■ ISO14001認証取得事業所

サイト名		認証機関	登録年月
伊藤ハム(株)	西宮工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年2月
	東京工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年9月
	豊橋工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年11月
	六甲工場	日本環境認証機構(JACO)	2001年10月

伊藤ハムデイリー(株)	東北工場	日本環境認証機構(JACO)	2004年5月
	小樽工場	日本環境認証機構(JACO)	2006年4月
	北陸工場	日本環境認証機構(JACO)	2006年8月
伊藤ハムウエスト(株)	九州工場	日本環境認証機構(JACO)	2002年2月
サンキョーミート(株)		日本海事検定キューエイ(NKKQQA)	2002年3月
IHミートパッカー(株)		日本海事検定キューエイ(NKKQQA)	2010年3月
IHミートソリューション(株)		日本海事検定キューエイ(NKKQQA)	2010年3月
沖縄フレッシュパック(株)		日本海事検定キューエイ(NKKQQA)	2010年2月
(株)藤栄		日本海事検定キューエイ(NKKQQA)	2010年2月
アイエイチロジスティクスサービス(株)	仙台センター	日本品質保証機構(JQA)	2004年3月
ファイブスター・ビーフ社(ニュージーランド)		SGS International Certification Services Pty Ltd.	2001年1月

※サンキョーミート(株)では、本社および有明ミート工場で認証取得し、その後、適用サイトに霧島ミート工場を追加、拡大審査認証を進めました。

■ ISO22000認証取得事業所

サイト名	認証機関	登録年月
サンキョーミート(株)	日本海事検定キューエイ(NKKQQA)	2005年12月
IHミートパッカー(株)	宮城ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKKQQA)
	東京ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKKQQA)
	十和田ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKKQQA)
	名古屋ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKKQQA)
IHミートソリューション(株)	川崎パックセンター	日本海事検定キューエイ(NKKQQA)
	神戸パックセンター	日本海事検定キューエイ(NKKQQA)
	札幌パックセンター	日本海事検定キューエイ(NKKQQA)
	九州パックセンター	日本海事検定キューエイ(NKKQQA)
	仙台パックセンター	日本海事検定キューエイ(NKKQQA)
沖縄フレッシュパック(株)	日本海事検定キューエイ(NKKQQA)	2008年11月
(株)藤栄	日本海事検定キューエイ(NKKQQA)	2008年12月
筑紫ファクトリー(株)北九州工場	BSIマネジメントシステム・ジャパン	2009年3月

※サンキョーミート(株)では、本社および有明ミート工場で認証取得し、その後、適用サイトに霧島ミート工場を追加、拡大審査認証を進めました。

■ ISO9001認証取得事業所

サイト名	認証機関	登録年月
サンキョーミート(株)	日本海事検定キューエイ(NKKQQA)	1999年12月
ファイブスター・ビーフ社(ニュージーランド)	SGS International Certification Services Pty Ltd.	2001年1月

※サンキョーミート(株)では、本社および有明ミート工場で認証取得し、その後、適用サイトに霧島ミート工場を追加、拡大審査認証を進めました。

■ エネルギー等使用量の推移

	総量(千kWh)	合計				
		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
電力	総量(千kWh)	224,609	230,856	234,336	219,980	216,337
燃料 ※1	総量(kl)	31,187	32,554	35,197	33,043	32,079
総エネルギー ※2	総量(GJ)	3,353,091	3,506,074	3,586,493	3,392,940	3,332,102
用水	総量(千m ³)	5,710	5,798	5,757	5,661	5,582

		伊藤ハム				
		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
電力	総量(千kWh)	135,468	138,417	141,582	110,024	107,730
燃料 ※1	総量(kl)	18,122	19,220	19,941	16,101	15,894
総エネルギー ※2	総量(GJ)	2,005,615	2,117,437	2,187,661	1,635,605	1,600,300
用水	総量(千m ³)	3,610	3,530	3,441	2,868	2,743
		関連会社				
		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
電力	総量(千kWh)	89,141	92,439	92,754	109,956	108,607
燃料 ※1	総量(kl)	13,065	13,334	15,256	16,942	16,185
総エネルギー ※2	総量(GJ)	1,347,476	1,388,637	1,398,832	1,757,335	1,731,802
用水	総量(千m ³)	2,100	2,268	2,316	2,793	2,839

※1:原油換算 ※2:総エネルギー:熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気)

対象範囲

■伊藤ハム(㈱神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場(ただし船橋工場は2008~2011年度)、本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所 ■伊藤ハムディリー㈱東北、小樽、北陸各工場、営業部 ■伊藤ハムウエスト㈱九州工場、営業部 ■浅草ハム㈱関東工場 ■ハーベーデリカテッセン㈱四日市工場 ■筑紫ファクトリー㈱北九州工場 ■サンキヨーミート㈱有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部(ただしファーム部は2008~2009年度) ■IHミートパッカー㈱関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション㈱九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各パックセンター(ただし茨城、青森各パックセンターは2008~2011年度) ■沖縄フレッシュパック㈱ ■㈱藤栄 ■ロイヤルデリカ㈱本社工場、岡山事業所 ■㈱菊水本社工場、サッポロファクトリー ■㈱大龍(2008~2009年度) ■伊藤ハム販売㈱ ■伊藤ハムフードソリューション㈱ ■伊藤ハムミート販売東㈱ ■伊藤ハムミート販売西㈱ ■アイエイチロジスティクスサービス㈱

■ハム・ソーセージ類、調理加工食品生産工場のエネルギー等使用量の推移

		合計				
		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
電力	総量(千kWh)	157,136	160,651	162,727	151,503	148,093
	生産原単位(kWh/t)	1,233	1,217	1,213	1,157	1,153
燃料 ※1	総量(kl)	22,048	23,509	24,347	24,802	24,790
	生産原単位(l/t)	173	178	182	189	193
総エネルギー ※2	総量(GJ)	2,369,538	2,500,989	2,566,852	2,412,887	2,355,457
	生産原単位(GJ/t)	19	19	19	18	18
用水	総量(千m ³)	4,407	4,339	4,269	4,184	4,063
	生産原単位(m ³ /t)	35	33	32	32	32
		伊藤ハム				
		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
電力	総量(千kWh)	129,067	131,226	134,356	103,026	101,627
	生産原単位(kWh/t)	1,257	1,233	1,226	1,113	1,127
燃料 ※1	総量(kl)	17,609	18,768	19,521	16,303	15,805
	生産原単位(l/t)	172	176	178	176	175
総エネルギー ※2	総量(GJ)	1,924,242	2,030,590	2,101,708	1,589,603	1,555,416
	生産原単位(GJ/t)	19	19	19	18	17
用水	総量(千m ³)	3,596	3,515	3,424	2,850	2,727
	生産原単位(m ³ /t)	35	33	31	31	30
		関連会社				
		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
電力	総量(千kWh)	28,069	29,425	28,371	48,477	46,466
	生産原単位(kWh/t)	1,131	1,149	1,154	1,262	1,215
燃料 ※1	総量(kl)	4,439	4,741	4,827	8,499	8,985
	生産原単位(l/t)	179	185	196	221	235

総エネルギー ※2	総量(GJ)	445,295	470,399	465,143	823,284	800,041
	生産原単位(GJ/t)	18	18	17	21	21
用水	総量(千m ³)	811	824	845	1,334	1,336
	生産原単位(m ³ /t)	33	32	34	35	35

※1:原油換算　※2:総エネルギー:熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気)

対象範囲

- 伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場(ただし船橋工場は2008~2011年度) ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場
- 伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーベーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■(株)大龍(2008~2009年度)

■二酸化炭素(CO₂)の排出量の推移

	合計				
	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
排出量(t-CO ₂)	194,878	203,002	207,223	195,095	189,699
	伊藤ハム				
	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
排出量(t-CO ₂)	112,716	118,760	122,508	93,507	88,739
	関連会社				
	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
排出量(t-CO ₂)	82,162	84,242	84,715	101,587	100,960

対象範囲

- 伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場(ただし船橋工場は2008~2011年度)、本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場、営業部 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場、営業部 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーベーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■サンキョーミート(株)有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部(ただしファーム部は2008~2009年度) ■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各パックセンター(ただし茨城、青森各パックセンターは2008~2011年度) ■沖縄フレッシュパック(株) ■(株)藤栄 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクター ■(株)大龍(2008~2009年度) ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムフードソリューション(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■アイエイチロジスティクスサービス(株)

■ハム・ソーセージ類、調理加工食品生産工場の二酸化炭素(CO₂)排出量の推移

	合計				
	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
排出量(t-CO ₂)	135,115	142,208	145,950	136,898	133,683
生産原単位(kg-CO ₂ /t)	1,060	1,077	1,088	1,045	1,041
	伊藤ハム				
排出量(t-CO ₂)	107,905	113,465	117,472	88,700	86,719
生産原単位(kg-CO ₂ /t)	1,051	1,067	1,072	958	962
	関連会社				
排出量(t-CO ₂)	27,210	28,743	28,478	48,198	46,964
生産原単位(kg-CO ₂ /t)	1,096	1,122	1,158	1,255	1,228

対象範囲

- 伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場(ただし船橋工場は2008~2011年度) ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場
- 伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーベーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■(株)大龍(2008~2009年度)

■ フロンガス(HCFC-22)排出量の推移

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
HCFC-22(kg)	3,328	3,911	3,695	5,133	4,966

対象範囲

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場(ただし船橋工場は2008～2011年度) ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場
■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーベーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■(株)大龍(2008～2009年度)

■ グリーン購入の推移

対象品目	グリーン購入の割合(%)					
	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	
事務用品 (金額ベース)	文具類 筆記具、ファイル等	95.4	96.4	96.8	97.5	97.8
	紙類 コピー用紙、コンピューター用紙など	98.8	99.2	99.6	97.5	87.1
	合計	98.1	98.5	98.9	97.5	90.3
事務機器 (数量ベース)	OA機器類 パソコン、コピー機、ファクシミリなど	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	オフィス家具類 事務用机、椅子、OAテーブルなど	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
その他	照明器具類 ランプ、蛍光灯器具など	76.9	78.8	88.4	84.2	81.4
	制服類 作業着など	96.8	98.6	98.6	98.2	97.7

対象範囲

■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場(ただし船橋工場は2008～2011年度) ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーベーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■(株)大龍(2008～2009年度)

サイトデータ



神戸工場



所在地

〒658-0033
兵庫県神戸市東灘区向洋
町西6-20-1

■ エネルギー使用量と二酸化炭素(CO₂)排出量(生産原単位)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
電力(kWh/t)	1,228	1,241	1,286	1,223	1,189
燃料(l/t)	152	167	178	230	225
総エネルギー(GJ/t)	17	18	19	21	20
用水(m ³ /t)	15	16	16	17	17
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	948	1,008	1,054	1,119	1,091

■ 廃棄物の排出量とりサイクル率

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
排出量(t)	609	718	1017	880	974
リサイクル率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

■ 排水の水質関係目標値達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	7.7	6.1	7.1
BOD(mg/l)	2,000	2,000	870.0	34.0	217.4
SS(mg/l)	2,000	2,000	600.0	18.0	137.7

■ 大気関係の目標値達成状況

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NOx(ppm)	6基	150	150	70	42
ばいじん(g/Nm ³)	6基	0.1	0.1	0.002	0.001

六甲工場



所在地

〒658-0033
兵庫県神戸市東灘区向洋
町西5-7

■ エネルギー使用量と二酸化炭素(CO₂)排出量(生産原単位)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
電力(kWh/t)	1,575	1,763	1,628	1,492	1,689
燃料(l/t)	172	181	166	159	192
総エネルギー(GJ/t)	21	24	22	21	24
用水(m ³ /t)	29	33	30	30	33
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,176	1,326	1,221	1,132	1,305

■ 廃棄物の排出量とりサイクル率

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
排出量(t)	801	852	858	868	719
リサイクル率(%)	100.0	100.0	100.0	99.1	99.8

■ 排水の水質関係目標値達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	8.0	6.7	7.2
BOD(mg/l)	2,000	180	12.0	1.0	5.5
SS(mg/l)	2,000	90	8.0	1.0	3.3

■ 大気関係の目標値達成状況

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NOx(ppm)	4基	150	40	15	15
ばいじん(g/Nm³)	4基	0.1	0.02	0.001	0.001

西宮工場



所在地

〒663-8586
兵庫県西宮市高畠町4-27

■ エネルギー使用量と二酸化炭素(CO₂)排出量(生産原単位)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
電力(kWh/t)	827	794	803	802	869
燃料(l/t)	161	171	169	164	168
総エネルギー(GJ/t)	14	14	14	14	15
用水(m³/t)	25	26	25	23	24
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	735	796	769	759	805

※ 電力は購入電力のみ、燃料はコーチェネシステム発電用を含む全燃料を計上しました。

■ 廃棄物の排出量とりサイクル率

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
排出量(t)	4,713	4,460	2,992	2,313	2,016
リサイクル率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

■ 排水の水質関係目標値達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～8.5	7.9	7.3	7.6
BOD(mg/l)	300	200	48.0	13.0	22.3
SS(mg/l)	750	400	58.0	10.8	28.8

■ 大気関係の目標値達成状況

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NOx(ppm)	A(7基)	60	45	14	14
	B(2基)	150	120	21	19
ばいじん(g/Nm³)	A(7基)	0.05	0.02	0.003	0.003
	B(2基)	0.05	0.02	0.005	0.004

豊橋工場



所在地

〒441-8686
愛知県豊橋市藤並町藤並
73

■ エネルギー使用量と二酸化炭素(CO₂)排出量(生産原単位)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
電力(kWh/t)	1,336	1,418	1,401	1,414	1,327
燃料(l/t)	172	175	172	175	167
総エネルギー(GJ/t)	20	21	20	21	19
用水(m ³ /t)	49	49	46	51	48
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,199	1,252	1,237	1,250	1,181

■ 廃棄物の排出量とりサイクル率

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
排出量(t)	2,649	2,675	2,869	3,190	3,023
リサイクル率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

■ 排水の水質関係目標値達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.5～8.5	7.9	7.2	7.6
BOD(mg/l)	20	15	11.0	2.4	4.6
SS(mg/l)	20	15	10.0	1.0	4.3

■ 大気関係の目標値達成状況

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	7基	2.2	1.0	0.064	0.042
NOx(ppm)	7基	-	180	88	68
ばいじん(g/Nm ³)	7基	-	0.1	0.002	0.002

東京工場



所在地

〒277-8586
千葉県柏市根戸1-3

■ エネルギー使用量と二酸化炭素(CO₂)排出量(生産原単位)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
電力(kWh/t)	1,276	1,064	1,030	1,017	1,059
燃料(l/t)	178	180	169	173	171
総エネルギー(GJ/t)	19	17	16	17	17
用水(m ³ /t)	47	35	31	32	31
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,020	936	895	896	915

■ 廃棄物の排出量とりサイクル率

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
排出量(t)	5,224	5,286	5,931	6,097	5,974
リサイクル率(%)	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0

■ 排水の水質関係目標値達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	7.8	7.3	7.6
BOD(mg/l)	10	9	2.2	0.5	1.5
SS(mg/l)	20	18	8.0	1.0	2.9

■ 大気関係の目標値達成状況

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NOx(ppm)	19基	150	120	48	25
ばいじん(g/Nm³)	19基	0.1	0.08	0.004	0.002

伊藤ハムデイリー株式会社 東北工場



所在地

〒987-2195
宮城県栗原市高清水来光沢20

■ エネルギー使用量と二酸化炭素(CO₂)排出量(生産原単位)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
電力(kWh/t)	1,055	1,048	1,045	1,024	914
燃料(l/t)	201	203	205	220	224
総エネルギー(GJ/t)	18	18	18	18	17
用水(m³/t)	37	36	36	35	36
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,114	1,116	1,118	1,141	1,090

■ 廃棄物の排出量とりサイクル率

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
排出量(t)	3,131	3,489	4,247	4,247	3,842
リサイクル率(%)	100.0	99.9	100.0	100.0	99.9

■ 排水の水質関係目標値達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	8.5	7.6	7.9
BOD(mg/l)	160	120	11.0	1.5	6.2
SS(mg/l)	200	100	18.7	3.0	6.9

■ 大気関係の目標値達成状況

	ボイラー 台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm³/h)	A(5基)	0.98	0.5	0.046	0.041
	B(1基)	8.31	0.5	0.110	0.110
NOx(ppm)	A(5基)	180	150	100	86
	B(1基)	180	150	87	87
ばいじん(g/Nm³)	A(5基)	0.3	0.1	0.018	0.012
	B(1基)	0.3	0.1	0.019	0.018

伊藤ハムデイリー株式会社 小樽工場



所在地

〒061-3271
北海道小樽市錢函5-61-3

■ エネルギー使用量と二酸化炭素(CO₂)排出量(生産原単位)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
電力(kWh/t)	1,304	1,370	1,303	1,187	1,163
燃料(l/t)	151	174	176	169	167
総エネルギー(GJ/t)	19	20	20	18	18
用水(m ³ /t)	23	25	25	21	21
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,126	1,224	1,193	1,112	1,093

■ 廃棄物の排出量とりサイクル率

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
排出量(t)	272	288	296	328	327
リサイクル率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

■ 排水の水質関係目標値達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.7～8.7	6.5～8.5	7.6	7.4	7.5
BOD(mg/l)	300	150	240.0	51.0	114.5
SS(mg/l)	300	150	270.0	55.0	125.1

■ 大気関係の目標値達成状況

	ボイラー台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	3基	0.63	0.5	0.160	0.088
NOx(ppm)	3基	180	150	89	81
ばいじん(g/Nm ³)	3基	0.3	0.1	0.010	0.010

伊藤ハムデイリー株式会社 北陸工場



所在地

〒932-0131
富山県小矢部市名畠5068

■ エネルギー使用量と二酸化炭素(CO₂)排出量(生産原単位)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
電力(kWh/t)	1,125	1,093	1,192	1,078	1,032
燃料(l/t)	167	164	186	185	173
総エネルギー(GJ/t)	17	17	19	18	17
用水(m ³ /t)	35	34	38	36	36
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,069	1,045	1,157	1,091	1,035

■ 廃棄物の排出量とりサイクル率

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
排出量(t)	246	252	209	295	351
リサイクル率(%)	73.4	77.4	98.1	98.6	98.6

■ 排水の水質関係目標値達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	6.0～8.0	6.0～8.0	7.6	7.2	7.4
BOD(mg/l)	50	10	9.3	0.5	2.0
SS(mg/l)	60	30	17.0	1.0	4.7

■ 大気関係の目標値達成状況

	ボイラ一台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	3基	2.1	0.1	0.030	0.018
NOx(ppm)	3基	-	150	91	84
ばいじん(g/Nm ³)	3基	0.2	0.1	0.010	0.010

伊藤ハムウエスト株式会社 九州工場



所在地

〒841-0202
佐賀県三養基郡基山町長野970-1

■ エネルギー使用量と二酸化炭素(CO₂)排出量(生産原単位)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
電力(kWh/t)	1,517	1,521	1,564	1,581	1,581
燃料(l/t)	251	236	295	297	291
総エネルギー(GJ/t)	24	24	27	27	27
用水(m ³ /t)	40	34	35	37	37
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	1,282	1,296	1,447	1,460	1,449

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
排出量(t)	3,609	3,477	3,444	3,268	3,504
リサイクル率(%)	99.9	99.9	100.0	99.9	99.9

■ 排水の水質関係目標値達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～8.5	7.8	7.4	7.6
BOD(mg/l)	30	25	7.5	1.0	2.4
SS(mg/l)	25	20	20.0	1.0	5.5

■ 大気関係の目標値達成状況

	ボイラ一台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
NOx(ppm)	7基	150	140	23	20
ばいじん(g/Nm ³)	7基	0.1	0.006	0.001	0.001

サンキヨーミート株式会社 有明ミート工場



所在地

〒899-7402
鹿児島県志布志市有明町
野井倉6965

■ エネルギー使用量と二酸化炭素(CO₂)排出量(生産原単位)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
電力(kWh/t)	234	230	214	209	208
燃料(l/t)	21	20	19	17	17
総エネルギー(GJ/t)	3	3	3	3	3
用水(m ³ /t)	14	15	15	14	13
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	187	182	171	161	154

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
排出量(t)	1,809	6,965	6,427	7,426	8,521
リサイクル率(%)	86.9	96.2	92.6	92.4	92.4

※ 2009年度より、廃棄物の種類の集計範囲を増やしたために排出量が大幅に増加しました。

■ 排水の水質関係目標値達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～8.0	7.7	7.4	7.6
BOD(mg/l)	30	15	5.8	1.9	3.1
SS(mg/l)	40	15	4.0	1.0	2.3

■ 大気関係の目標値達成状況

	ボイラー台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	5基	1.8	1	0.020	0.015
NOx(ppm)	5基	—	—	110	78
ばいじん(g/Nm ³)	5基	0.3	0.2	0.001	0.001

サンキヨーミート株式会社 霧島ミート工場



所在地

〒886-0004
宮崎県小林市細野2516

■ エネルギー使用量と二酸化炭素(CO₂)排出量(生産原単位)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
電力(kWh/t)	206	202	155	130	104
燃料(l/t)	10	10	8	6	6
総エネルギー(GJ/t)	2	2	2	2	1
用水(m ³ /t)	3	2	2	1	1
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	141	137	106	88	70

■ 廃棄物の排出量とりサイクル率

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
排出量(t)	124	1,487	1,278	2,347	3,063
リサイクル率(%)	82.6	98.8	99.9	99.9	99.9

※ 2009年度より、廃棄物の種類の集計範囲を増やしたために排出量が大幅に増加しました。

■ 排水の水質関係目標値達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～7.8	7.7	7.2	7.5
BOD(mg/l)	160	100	3.4	0.9	2.0
SS(mg/l)	200	50	8.0	1.0	4.5

■ 大気関係の目標値達成状況

	ボイラ一台数	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx(Nm ³ /h)	1基	1.1	1	0.250	0.170
NOx(ppm)	1基	180	150	82	60
ばいじん(g/Nm ³)	1基	0.3	0.2	0.023	0.008

アイエイチロジスティクスサービス株式会社仙台センター



所在地

〒983-0034

宮城県仙台市宮城野区

扇町7-7-10

■ エネルギー使用量と二酸化炭素(CO₂)排出量(生産原単位)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
電力(kWh/t)	536,400	485,987	565,388	557,997	572,982
ガソリン(l)	870	690	840	1,092	916
軽油(l)	58,600	59,440	51,326	39,678	39,701
CO ₂ (kg-CO ₂ /t)	453,210	427,013	450,176	416,150	419,535

■ 廃棄物の排出量とりサイクル率

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
排出量(t)	6	2	2	2	4
リサイクル率(%)	90	47	48	41	18



環境保全活動の沿革

年月	弊社の主な取り組み内容	
1965年	廃水処理設備の導入開始	
1973年	都市ガス燃料ボイラーの導入開始	
1991年	生産各工場に「環境管理室」を設置	
1993年	生産事業本部に「環境安全担当」を設置	
1994年	大型ボイラーから小型ボイラーに更新し環境負荷を低減	
1998年	営業車輛に天然ガス(CNG)自動車の導入開始(業界初) 「環境担当役員」を選任、「環境安全推進室」を設置 全社的な環境活動推進組織「環境委員会」を設置 「環境委員会・生産部会」「工場環境会議」を設置	
1999年	「環境基本方針」を制定 東京工場が廃棄物計量システムを初めて導入	
2000年	西宮工場、東京工場、豊橋工場がISO14001を認証取得 環境監査実施基準を策定し、全社的に環境監査を開始 環境報告書を初めて発行 ホームページの「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開設	
2001年	ニュージーランドのファイブスターーフ社がISO14001を認証取得 六甲工場がISO14001を認証取得 中期経営計画において環境活動3ヵ年計画を策定 グリーン購入基本方針制定	

2001年	生産工場を対象に環境会計を導入 
	西宮工場で都市ガスによるコーチェネシステムが稼働 
2002年	九州工場、サンキョーミート株有明ミート工場・霧島ミート工場がISO14001を認証取得
	環境推進組織「生産部会」の下に「省エネ対策専門会議」を設置
	コンプライアンス・ハンドブックを従業員に配布
	日本食糧新聞社の「環境資源協力賞」を受賞 
	社会貢献活動理念と活動方針を策定
2003年	「社会貢献推進期間」を設定し、全国の事業所で社会貢献活動の取り組みを開始
	「クリーンアップin甲子園浜」(初めての自主企画)を実施 
	こうべ市民演習林の名称が「こうべ森の学校」と決定し、本格的な森林保護活動がスタート 
2004年	伊藤ハム物流(株)仙台共配センター((現)アイエイチロジスティクスサービス株式会社仙台センター)、伊藤ハムデイリー(株)東北工場が ISO14001認証取得
	全国農林水産関連企業環境対策協議会より感謝状を受賞
	平木小学校(西宮市)において環境学習「出前授業」を初めて実施
2005年	自然保護をテーマにした「“食とeco”わくわく探検隊」を初めて実施(春・秋) 
2006年	伊藤ハムデイリー(株)小樽工場がISO14001を認証取得 社会貢献活動「環境学習都市にしのみやパートナーシッププログラム事業」(「“食とeco”わくわく探検隊」と「クリーンアップin甲子園浜」の2つのイベント)に対し西宮市長より感謝状を受賞 
	伊藤ハムデイリー(株)北陸工場がISO14001を認証取得
	「ハム工場を学ぼう」を初めて実施

2008年	<p>「環境委員会 食肉生産部会」を設置 食育イベント「スマイルキャラバン」を実施</p>
2009年	<p>西宮工場で「太陽光発電設備」が稼働</p> 
2010年	(株)藤栄、沖縄フレッシュパック(株)、IHミートパッカー(株)、IHミートソリューション(株)がISO14001を認証取得
2011年	<p>伊藤ハムデイリー(株)東北工場を拠点としてスマイルキャラバン号による炊き出し活動を実施</p> 

ガバナンス



ステークホルダーの皆様からの信頼を高め、健全で誠実な企業経営を行ううえで守るべき考え方を「企業倫理規範」として策定しています。企業価値の持続的な向上を実現するためには、高い企業倫理観に基づく公正な企業経営を徹底することが基本であると考え、コンプライアンス(企業倫理の遵守)の強化に取り組んでいます。

企業倫理規範(コンプライアンスの原則)

1. 公正な活動

伊藤ハムグループは、会社が社会の公器であるとの自覚と責任のもと、常に社会的良識に沿って公正に行動します。

2. 倫理観と遵法の精神

常に遵法を心がけ、確固たる倫理観をもって誠実に事業活動を行います。

3. 関係法令の社内徹底

事業活動に必要な関係法令の収集とその理解に努め、その遵守を確実にするため、社内規程の制定と教育・アナウンスなどを通じて社内徹底を図ります。

4. 法令違反の早期是正と厳正対処

業務遂行活動が関係法令や社会的良識に反する場合は、速やかにその違反状態を是正し、再発防止に努めるとともに、違反行為に対して厳正に対処します。

組織体制

伊藤ハムグループでは、CSR本部が中核となってコンプライアンスを推進しています。

CSR本部の目的は、伊藤ハムグループの役員をはじめ、全従業員のコンプライアンスへの意識をさらに向上させ、実践の企業風土を十分に浸透させるとともに、内部監査体制を強化し拡充することです。CSR本部長は社長代行として、コンプライアンス違反行為への改善指示を行う権限を持つとともに、「監査などを通じて問題点を早期に発見し、社長・取締役会に報告すること」、「現場への改善を指示すること」、「是正プロセスと結果を確認し、社長・取締役会へ報告すること」について責任を負っています。

■ CSR推進組織図



Pickup

コンプライアンス委員が職場での実践を支援

「職場に根付いたコンプライアンス」を徹底して推進するために、伊藤ハムグループ全体で305名のコンプライアンス委員を任命。コンプライアンス委員は担当職域内で、コンプライアンスに関する周知の徹底を図る活動や、同僚からの相談への対応など、さまざまな活動を行っています。

また、定期的に開催されるコンプライアンス委員ミーティングでは、「傾聴」など相談対応の際に必要なスキルの向上を行っています。



コンプライアンス委員ミーティング

担当社員の声

2012年度は、各委員に対し、コンプライアンス委員ミーティングを年間3回実施しました。2011年度には193名だった委員が305名と大幅に増えたことで、従業員がコンプライアンス活動をより身近に感じることができるようになったと思います。

今後は委員同士が議論し、会社に取り組みを提案できるような主体的活動になっていくことが目標です。

CSR本部 コンプライアンス推進室
坂田 健



コンプライアンスに関するルールを明確化し、規程を整備しています

コンプライアンスに関するルールを明確化し、従業員への周知を図るために、「コンプライアンス推進規程」「社内通報規程」「内部者取引管理規程」「個人情報取扱規程」の4つを整備しています。

コンプライアンス推進規程	コンプライアンスの実践やコンプライアンス推進体制などについて定めています。
社内通報規程	相談窓口の対応手順や通報・相談者の保護などについて定めています。
内部者取引管理規程	証券取引および関連法規に違反する内部者取引を未然に防止するために、役職員の職務に関して取得した未公表の内部情報(重要事実と同義)の管理、役職員の株式等の売買その他の取引および役職員の職務に際して遵守すべき基本的事項を定めています。
個人情報取扱規程	個人情報の取得、保管、利用、廃棄のプロセスを定めています。

複数の相談窓口を設けてコンプライアンスに関する相談に対応

違法行為、社内ルール違反や社会的良識からの逸脱に気づいた場合の対応としては、まず上司に報告することを基本としています。

しかし、それが難しく、従業員がコンプライアンスに関することで困ったとき、悩んだときの相談先として、コンプライアンス推進室の「社内相談窓口」など4つの窓口を設置し、相談に対応しています。

また、社外の方からのお申し出については、ホームページとお客様相談室(フリーダイヤル:0120-011186)で承っています。



コンプライアンスカード

コンプライアンス教育の実施によって従業員の意識の向上を図っています

従業員のCSRやコンプライアンスに対する意識・関心を高め、行動に結びつけるために、コンプライアンス講習会、管理職研修、新入社員研修、階層別研修や部門研修、部課長会議、所長会議や店長会議など、さまざまな場面でコンプライアンスについての教育を行っています。

2012年度は、「ルール、マニュアルを遵守する理由を理解する勉強会」、新入社員向けの「コンプライアンス基本研修」など、のべ230回のコンプライアンス教育を実施し、のべ8,014名の従業員が参加しました。今後も、会議や研修の場を通じた各階層への働きかけを継続するとともに、より身近なテーマを設定した講習会を開催するなどの取り組みにより、従業員のコンプライアンスに対する意識の向上を促し、コンプライアンス違反の防止につなげていきます。



コンプライアンス勉強会

インターネット、社内報を使ってコンプライアンスに関する情報を共有

伊藤ハムグループでは、従業員にコンプライアンス・マインドを浸透させ、日常業務の中で実践につなげるために、コンプライアンスの周知・啓発活動を展開しています。

このような活動の効果を高めるために、社内インターネットや社内報を使ってコンプライアンスに関する情報を開示しています。



社内インターネット



社内報「YAKUDO」

9月1日を「コンプライアンスデー」と定め、ポスターの掲示などを行っています

従業員のコンプライアンス・マインドのさらなる浸透と定着を図るために、毎年9月1日を「コンプライアンスデー」と定め、コンプライアンス意識調査の実施やポスターの掲示を行っています。

2012年度も、各事業所、職場でのポスター掲示をはじめとする取り組みを実施しました。



ポスター

毎年、グループの全従業員を対象に「コンプライアンス意識調査」を実施

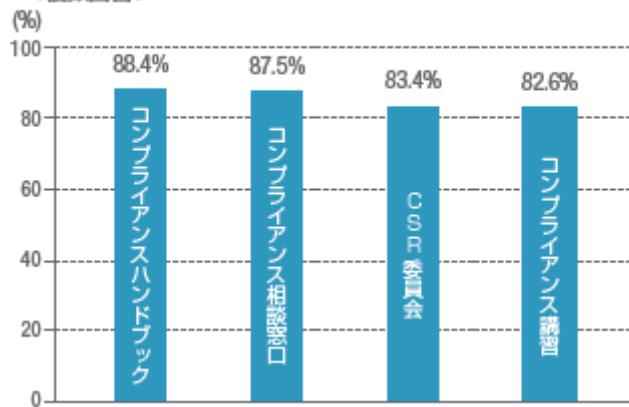
コンプライアンス・マインドの浸透状況を把握し、推進活動に役立てるとともに、従業員にその結果を報告し、各職場での実践につなげるために、グループ全従業員を対象とした「コンプライアンス意識調査」を年1回、実施しています。この調査の結果は、毎回、社内イントラネットに掲示しているほか、各職場で上司から部下へフィードバックしています。

2012年度は9月にこの調査を行い、全従業員4,308名の89.9%にあたる3,874名から回答を得ました。2013年度は、設問をより具体的な内容に改善した上でこの調査を実施して、職場で起こっている問題とその要因の解明、解決策の立案に役立てる考えです。

■ 第11回コンプライアンス意識調査結果(正社員対象)【抜粋】

●あなたはコンプライアンスの体制・取り組みを知っていますか。

<複数回答>



目的:コンプライアンスの浸透状況を把握し、今後の活動にいかすため。

期間:2012年9月1日～2012年9月22日

対象者:伊藤ハムグループに所属する役員、執行役員、社員合計4,308名

リスクマネジメント

法令違反リスクとその防止をチェックし、リスクマネジメントやBCPに取り組んでいます

事業部門ごとに業務や取引に関連する法令を抽出し、モニタリング活動をするリーガルリスクマネジメント、また自然災害を想定したBCPの取り組みを行っています。

公正な取引

下請法はもちろんとして、取引先と公正な取引を行っています

業務、取引で関連する従業員には、年1回の講習を行い、法令遵守を徹底しています。

情報セキュリティ

評価を継続的に行うなど情報セキュリティの維持・強化に努めています

従業員がITを利用するにあたっては、「伊藤ハムグループIT利用規則」を定め、ITの効果的活用を目指すとともに、法令・社内の諸規程および社会倫理に反する利用や、お客様を含めた一般社会に不利益を与える利用を厳しく禁じています。

同時に、情報資産のセキュリティ確保および個人情報の保護といった社会的責任を果たすべく、インターネットに潜むサイバー攻撃などの脅威やモバイル機器の取扱いなど、情報資産にかかるリスクを継続的に評価しているほか、従業員教育のプログラムにも組み込むなど、情報セキュリティの維持・強化に努めています。